九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第10巻 : 資料編III

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1787570

出版情報：九州大学百年史. 10, 2016-12-28. Kyushu University
バージョン：
権利関係：

第２章　創立百周年記念事業

第１節　創立百周年記念事業

947　九州大学創立百周年記念事業委員会要項

（2005（平成 17）年 12 月 16 日実施）

九州大学創立百周年記念事業委員会要項

実　施：平成 17 年 12 月 16 日

1　設置

九州大学に、九州大学創立百周年記念事業委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2　任務

委員会は、次に掲げる事項を行う。

(1)　九州大学創立百周年記念事業（以下「記念事業」という。）の実施方針及び実施計画の審議に関すること。

(2)　記念事業に係る募金に関すること。

(3)　創立百周年記念事業後援会との連携に関すること。

(4)　その他記念事業に係る重要事項に関すること。

3　組織

委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　総長

(2)　理事

(3)　総長特別補佐

(4)　各研究院長、法務学府長、システム生命科学府長、教育学部長、各附置研究所長、病院長、附属図書館長、高等教育総合開発研究センター長、情報基盤センター長、健康科学センター長、センター群協議会Ⅰの議長及びセンター群協議会Ⅱの議長

(5)　事務局長

4　委員長

(1)　委員会に委員長を置き、総長をもって充てる。

(2)　委員長は、委員会を主宰する。

5　副委員長

(1)　委員会に副委員長を置き、理事のうちから総長が指名する。

(2)　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行す

る。

6　専門委員会

委員会に、2 の(1)から(4)までに掲げる事項に係る企画・立案及び実施・調整等を行わせるため、九州大学創立百周年記念事業専門委員会（以下「専門委員会」という。）を置く。

7　専門委員会委員

(1)　専門委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

イ　理事及び総長特別補佐のうちから総長が指名する者

ロ　各研究院、法務学府、システム生命科学府、教育学部、医学部、各附置研究所、病院、附属図書館、高等教育総合開発研究センター、情報基盤センター、健康科学センター、産学連携センター及び大学文書館から選出された教授　各 1 人

ハ　教授のうちから総長が指名する者　若干人

ニ　百周年記念事業対策推進室長

ホ　事務局長及び事務局の各部長

ヘ　その他専門委員会委員長が必要と認めた者　若干人

(2)　(1)のロの委員の任期は、2 年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(3)　(1)のロの委員は、再任されることができる。

(4)　委員は、総長が任命する。

(5)　専門委員会に委員長を置き、総長が指名する理事をもって充てる。

(6)　委員長は、専門委員会を主宰する。

(7)　専門委員会に副委員長を置き、委員のうちから委員長が指名する。

(8)　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

8　ワーキンググループ等

専門委員会に、特定の事項に関して調査・検討させるため、必要に応じてワーキンググループ等を置くことができる。

9　議事

(1)　委員会及び専門委員会（以下「委員会等」という。）は、委員の 2 分の 1 以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

(2)　委員会等の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

10　委員以外の者の出席

委員会等が必要であると認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、意見又は説

明を聞くことができる。

11　総長の出席

総長は、委員会等に随時出席し、審議に加わることができる。

12　事務

委員会等に関する事務は、事務局各課等の協力を得て、総務部総務課において処理する。

13　補則

この要項に定めるもののほか、委員会等の運営等に関し必要な事項は、当該委員会おいてそれぞれ定める。

14　実施

(1)　この要項は、平成 17 年 12 月 16 日から実施する。

(2)　当分の間、3 の(4)中「及びセンター群協議会Ⅱの議長」とあるのは、「、センター群協議会Ⅱの議長及び医療技術短期大学部部長」と読み替えるものとする。

(3)　この要項は、九州大学創立百周年記念事業が完了した日にその効力を失う。

948　九州大学百周年記念事業募金趣意書

九州大学百周年記念事業

募　金　趣　意　書

九州大学は明治 44（1911）年、20 世紀の日本を担う拠点大学として設立され、平成 23（2011）年に 100 周年を迎えます。

これまでの 100 年は箱崎の地を中心に、近代日本を支え・発展させる人材、12 万人の学部卒業生、7 万人の大学院修了者を送り出してきました。

平成 16（2004）年の国立大学法人化を経て、平成 17（2005）年に設立の地箱崎から新たな伊都キャンパスへ移転を開始し、新天地において新世紀の九州大学として、さらなる充実と飛躍をめざします。

さらに伊都キャンパスは、新世紀の九州大学の拠点であると同時に、地域社会や産業・経済界と連携した新しい学術研究都市づくりの拠点としての役割を担います。

今、九州大学は、世界が、そして人類が希求する知を先導するべく、グローバル化するアジアの学術リーダーとして「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指しています。新たな知の創造の場を建設し、新時代のフロンティアを切り拓く人材の育成を目的として、百周年記念事業を次のとおり企画いたしました。

1. 教育研究環境の整備充実を図るための九州大学基金（仮称）の創設
2. 生涯学習時代に対応する社会人等の受入れ推進事業
3. 産学連携・地域連携等推進事業
4. 国際交流推進事業

5. 九州大学百年史の編纂と記念式典・記念シンポジウム等の開催

来し方百年の歴史を踏まえ、新世紀の空間伊都キャンパスに踏み出す、時・空のけじめにあたり、卒業生ならびに教育界、経済界、行政・地域社会にわたる関係各位の絶大なご支援をお願い申し上げます。

平成 18 年 12 月

九州大学百周年記念事業委員会委員長

総長　梶　山　千　里

百周年記念事業の目標

新しい知の創造拠点の構築

九州大学は新世紀を拓き、より善き知の創造とその展開を目指す。

知のエイジアン グローバリズム（Asian Globalism）の先導

九州大学は、グローバル化するアジアの学術交流のリーダーとして、世界が求める知の創造を先導する。

人類の未来を切り拓くリーダーの育成

九州大学は、世界的に活躍する人材、人類の未来を託す人材を養成する。

949　九州大学百周年記念事業推進室規程

（2009（平成 21）年 4 月 1 日施行）

九州大学百周年記念事業推進室規程

平成 20 年度九大規程第 103 号

施　　行：平成 21 年 4 月 1 日

（趣旨）

第 1 条　この規程は、九州大学学則（平成 16 年度九大規則第 1 号）第 16 条第 3 項の規定に基づき、百周年記念事業推進室（以下「推進室」という。）の内部組織その他必要な事項を定めるものとする。

（業務）

第 2 条　推進室は、次に掲げる具体的業務を行う。

(1)　百周年記念事業の推進に係る具体的方策の原案作成に関すること。

(2)　百周年記念事業に係る募金活動に関すること。

(3)　その他百周年記念事業の推進に係る支援に関すること。

（組織）

第３条　推進室は、室長、副室長及び室員をもって構成する。

（室長）

第４条　室長は、理事のうちから総長が指名する者をもって充てる。

２　室長は、推進室の業務を掌理する。

（副室長）

第５条　副室長は、職員のうちから室長の推薦に基づき、総長が指名する者をもって充てる。

２　副室長は、室長を補佐する

（室員）

第６条　室員は、職員のうちから室長の推薦に基づき、総長が指名する者をもって充てる。

２　室員は、室長の命を受け、推進室の業務を処理する。

（コーディネーター）

第７条　推進室に、第２条第２号の業務を推進するため、コーディネーターを置くことができる。

２　コーディネーターは、第２条第２号の業務の推進に関し適当と認められる者（学外者を含む。）のうちから総長が指名又は委嘱する。

（事務）

第８条　推進室に関する事務は、事務局各課等の協力を得て、総務部社会連携課において処理する。

（補則）

第９条　この規程に定めるもののほか、推進室の運営等に関し必要な事項は、室長が別に定める。

附　則

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

950　九州大学創立百周年記念事業報告書

（表紙）

「

九州大学創立百周年

記念事業報告書

九大百年

」

目　次

あいさつ
九州大学百周年記念事業委員会委員長　九州大学総長　有川節夫･･･ 2
九州大学百周年記念事業推進会会長　九州経済連合会会長　松尾新吾･･･ 4
九州大学百周年記念事業の経過 ･･･ 5
Ⅰ．九州大学百周年記念事業の趣旨・概要 ･････････････････････････････････ 6
1．記念事業の趣旨及び記念事業計画の策定 ･････････････････････････････ 6
2．「九州大学基金」の創設及び「基金」による事業概要 ･････････････････ 7
3．記念事業の実施体制 ･･･ 8
4．『九州大学百年史』の刊行 ･･･ 10
5．寄贈建物 ･･･ 11
稲盛財団記念館 ･･･ 11
6．記念事業 (1) ･･･ 12
(1)　九州大学基金の創設 ･･･ 12
(2)　奨学金の創設 ･･･ 12
(3)　センター・寄附講座の開設 ･･･････････････････････････････････････ 12
(4)　百周年記念物の制作　出版物、パネル、楽曲 ･･････････････････････ 14
(5)　「九州大学博多駅オフィス」の開設 ･･･････････････････････････････ 15
7．記念事業 (2) ･･･ 16
(1)　九大百年開学式 ･･･ 16
(2)　山川健次郎初代総長胸像設置式 ･･･････････････････････････････････ 16
(3)　記念講演会・フォーラム・シンポジウム、特別講座、展示等 ･･････････ 17
(4)　平成 24 年に開催する九州大学創立百周年記念行事について ･････････ 26
(5)　百周年記念公式ロゴマークの制定 ･･･････････････････････････････ 27
8．九州大学百周年関連の新聞記事 ･･･････････････････････････････････････ 30
Ⅱ．記念事業募金の概要 ･･･ 31
1．募金事業を開始するまでの経緯 ･･･････････････････････････････････････ 31
(1)　九州大学百周年記念事業委員会の設置 ･･･････････････････････････････ 31
(2)　九州大学百周年記念事業推進会の設立 ･･･････････････････････････････ 31
(3)　募金に関する諸事項 ･･･ 32
1)　募金目標額の決定 ･･･ 32
2)　募金の対象 ･･･ 32
3)　寄附者への顕彰 ･･･ 33
(4)　募金のための諸手続き ･･･ 33
2．募金活動 ･･･ 33
(1)　教職員への協力要請 ･･･ 33

(2)　卒業生への協力要請 …… 34
(3)　法人への支援要請…… 34
3. 百周年記念事業募金活動の終了と推進会の解散 …… 35
(1)　百周年記念事業募金活動の終了と九州大学基金事業への継続 …… 35
(2)　推進会の解散…… 35
(3)　今後の募金事業について…… 35
Ⅲ. 百周年記念事業収支決算書 …… 36
Ⅳ. 資料…… 37
1. 九州大学百周年記念事業概要 …… 37
2. 九州大学百周年記念事業委員会要項 …… 38
3. 九州大学百周年記念事業推進会設立趣意書 …… 41
4. 九州大学百周年記念事業推進会会則 …… 42
5. 九州大学百周年記念事業基金設置要項 …… 44
6. 九州大学基金規程…… 45
7. 九州大学百周年記念事業基金の顕彰の方法等について …… 47
8. 九州大学百周年記念事業寄附金等事務取扱要領 …… 48
9. 募金要項…… 49
10. 記念事業関係委員会等委員名簿…… 51
Ⅴ. 寄附者芳名録…… 59
1. 法人・団体…… 60
2. 個人…… 66
九州大学　学生歌・応援歌、イメージング・ソング …… 118
あとがき
九州大学理事・副学長（百周年事業担当）落合英俊 …… 125

九州大学百周年記念事業委員会委員長
九州大学総長
有川　節夫

はじめに、去る 3 月 11 日に発生した、国内観測史上最大という未曾有の東日本大震災により、尊い命を亡くされた多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、甚大な被害に遭われました皆様、今なお避難生活を余儀なくされている多くの方々に対しまして心よりお見舞いを申し上げます。そして、命がけで復旧のために活動を続けておられる大勢の方々の勇気に、心より敬意を表します。1 日も早い原子力発電所の事故の終息・沈静化と被災地の復興を祈念致します。

九州大学は、明治 44 年、新設された工科大学と、京都帝国大学福岡医科大学が統

合して、我が国 4 番目の帝国大学となる九州帝国大学として創設され、今年、百周年を迎えました。創設時には、福岡県をはじめ、多くの皆様に多大なご支援をいただきました。以来、馬出、箱崎、筑紫、大橋、そして伊都と大学の発展に伴い、新たな地域との繋がりを得ることができました。

初代総長の山川健次郎先生をはじめとする諸先輩のご努力と卓越した見識、成果の蓄積が伝統と実績に基づく九州大学の力となり、現在では、11 学部と 21 世紀プログラム、すべての授業を英語で行う国際コースに加えて、18 の大学院学府、4 つの専門職大学院、17 の研究院、5 つの附置研究所、1 つの大学病院を擁する我が国屈指の基幹総合大学として発展し、現在も、多くのシステム改革を行いながら絶えず成長を続けています。この間、多くの学部卒業生、大学院生を世に送り出してまいりましたが、皆様の卒業後の様々な分野でのご活躍により、母校である九州大学に対しても高い評価をいただいています。

九州大学では、百周年を迎えるにあたり「知の新世紀を拓く」をスローガンとして百周年記念事業を進めてまいりました。本事業を学外から支援するため、経済界をはじめ地元自治体、関係団体の皆様のご賛同を得て、九州大学百周年記念事業推進会を設立し、記念事業の推進にご尽力をいただきました。本事業のため、様々なご協力をいただいた九州大学百周年記念事業推進会の皆様と本事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

九州大学では、皆様からいただいたご寄附を基に「九州大学基金」を創設し、学生、若手教職員への様々な支援を行い、人類の未来を切り拓くリーダーを育成し、社会に輩出し続けます。また、産業界、地域、卒業生、同窓会との連携も視野に入れて、この基金を活用させていただくことにしております。

九大百年にあたり、新たな百年を見据えながら、九州大学の基本理念と目指す姿を掲げ、その実現に向けて行動していきます。九州大学は、自立的に改革を続け、教育の質を国際的に保障するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となることを基本理念とし、次のような大学を目指すことを宣言いたします。

1. 卓越した基礎研究とそれに支えられた先端的研究を推進する大学
2. 確固たる基礎と確かな応用実績に根差した教育を行う大学
3. 知の継承と蓄積を推進する大学
4. 幅広い教養と深い専門性をもったリーダーを育成する大学
5. 地域や国際社会に貢献する最先端医療を推進する大学
6. 独創的な新科学領域を展開し、社会の要請に応える大学
7. 最高水準の研究・教育を支える環境・基盤整備を推進する大学
8. 自律的に改革を続け、絶えず進化する大学

9. 都市とともに栄え、世界へ飛翔し続ける大学

「九大百年、躍進百大。」九州大学がすべての分野において世界のトップ百大学に躍進すべく、これからの百年の基盤を築いていきます。

今後とも、九州大学に対し、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 23 年 8 月 26 日

九州大学百周年記念事業推進会会長
九州経済連合会会長
松尾　新吾

九州大学は、明治 44 年、九州帝国大学として設立されて以来、平成 23 年をもって創立百周年を迎えられました。これまでに、わが国を代表する総合大学として、多数の優秀な人材を社会に送り出すとともに、幾多の優れた研究業績を世に問い、わが国の社会と学術の発展に多大な貢献をされてまいりました。

九州大学では、創立百周年を迎えるにあたり、平成 17 年より九州大学百周年記念事業を計画し、募金活動を開始されました。

九州大学百周年記念事業推進会は、この、九州大学百周年記念事業を支援する組織として、鎌田迪貞九州経済連合会会長を会長とし、平成 19 年 2 月に設立、支援活動を開始いたしました。

同年 7 月には、前田勝之助東レ株式会社名誉会長を部会長とする九州大学百周年記念事業推進会東京部会を設立、同年 11 月には、稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長を部会長とする九州大学百周年記念事業推進会関西部会が設立され、関東、関西における九州大学百周年記念事業への支援体制が強化されました。

平成 21 年 5 月 26 日より、鎌田迪貞前会長の後を受け、私が九州大学百周年記念事業推進会会長として百周年記念事業への支援活動を推進してまいりました。

また、百周年記念事業推進会、東京部会、関西部会には、九州大学卒業生をメンバーとする幹事会が設置され､大学と連携を図りながら支援活動を行ってまいりました。芦塚日出美推進会幹事会幹事長、江本寛治東京部会幹事会幹事長、荒巻禎一関西部会幹事会幹事長には、各幹事会を主宰いただき、大学に対し募金活動や記念事業活動への助言をいただきました。

このような支援活動を重ね、本年 3 月までに、募金総額は寄附建物を含め約 48 億円に達しました。記念事業の趣旨にご賛同いただき、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

九州大学百周年記念事業推進会役員の皆様には、ご多忙な中、長期にわたり、推進会の中核として、九州大学百周年記念事業の推進にご尽力いただきました。皆様のご支援・ご協力に対し深く感謝申し上げます。

九州大学では、百周年記念事業寄附金を基に「九州大学基金」を創設し、学生・留学生への支援や卒業生との連携、地域社会、企業との連携等に対し活用されます。

九州大学が、百周年を機に、人材育成や研究成果の社会への還元等を通して、九州はもとより、日本、アジア、世界の未来に貢献されることを期待します。

平成 23 年 8 月 26 日

九州大学百周年記念事業の経過

九州大学百周年記念事業委員会の設置	2005 年（平成 17 年）12 月
九州大学百周年記念事業計画の策定	2006 年（平成 18 年）10 月
九州大学百周年記念事業推進会の設置	2007 年（平成 19 年）2 月
百周年シンボルマークの制定	2007 年（平成 19 年）12 月
九州大学基金の創設	2010 年（平成 22 年）6 月
九州大学百年史写真集の刊行	2011 年（平成 23 年）5 月
九大百年開学式	2011 年（平成 23 年）5 月 13 日
山川健次郎初代総長胸像設置式	2011 年（平成 23 年）5 月 13 日

百周年記念事業として設置・創設したセンター、寄附講座、奨学金等につきましては、「6. 記念事業(1)」に、各部局が企画した行事等につきましては、「7. 記念事業(2)」に記載しております。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災による深刻な社会状況を考慮し、平成 23 年 5 月に予定しておりました創立百周年記念行事を 1 年延期いたしました。改めて、平成 24 年 5 月に、本学の百年にわたる歴史、伝統、これまでの教育・研究・診療等の成果を広く発信・公開することを目的として、下記の記念行事を開催いたします。

九州大学創立百周年記念式典	2012 年（平成 24 年）5 月 12 日（予定）
九州大学創立百周年記念講演会	2012 年（平成 24 年）5 月 12 日（予定）
九州大学創立百周年記念祝賀会	2012 年（平成 24 年）5 月 12 日（予定）
写真で見る「九大百年」展	2012 年（平成 24 年）5 月 12 日（予定）
箱崎キャンパス公開	2012 年（平成 24 年）5 月 12 日（予定）
九大 100 年まつり	2012 年（平成 24 年）5 月 13 日（予定）
第 4 回 QU ウォーク	2012 年（平成 24 年）5 月 13 日（予定）
山川健次郎初代総長胸像披露式	2012 年（平成 24 年）5 月 13 日（予定）
九州大学創立百周年記念コンサート	2012 年（平成 24 年）5 月 26 日（予定）
九州大学百年史の刊行	2017 年（平成 29 年）3 月（予定）

Ⅰ　九州大学百周年記念事業の趣旨・概要

1. 記念事業の趣旨及び記念事業計画の策定

1911 年（明治 44 年）、東北大学に次ぎわが国 4 番目の帝国大学として、九州・福岡の地に設立された九州大学は、2011 年（平成 23 年）に創立百周年を迎えました。

この百年の間、大学を取り巻く環境は大きく変化し、いわゆる「象牙の塔」から「社会に開かれた」大学、一国のみならずグローバルな環境のもとでの大学、というように大学のあり方、存在意義も大きく変わってまいりました。この間九州大学は時代の要請に応えつつ、幾多の優れた人材を世に送り出し、また優れた研究実績を残し、わが国有数の総合大学として発展してまいりました。九州大学は創立百周年を迎えるにあたり、これまでの百年の歴史を踏まえつつ、新世紀における九州大学の基本的目標を「百周年記念事業」という形で具体化し、推進していくこととしました。

記念事業の企画・推進のため、2005 年（平成 17 年）に総長を委員長に全学各組織のトップで構成する「九州大学百周年記念事業委員会」を設置し、「百周年記念事業」の内容等について検討を重ねた結果、2006 年（平成 18 年）10 月に次のような百周年記念事業のスローガン、コンセプト、事業概要を決定いたしました。

スローガン「知の新世紀を拓く」

コンセプト

100 年の伝統を基盤とし、知の新世紀を拓く

1. 新しい知の創造拠点の構築
2. 知のアジアグローバリズムの先導
3. 人類の未来を切り拓くリーダーの育成

事業概要

1. 教育研究環境の整備充実を図るための九州大学基金（仮称）の創設
2. 生涯学習時代に対応する社会人等の受入れ推進事業
3. 産学連携・地域連携等推進事業
4. 国際交流推進事業
5. 九州大学百年史の編纂と記念式典・記念シンポジウム等の開催

2. 「九州大学基金」の創設及び「基金」による事業概要

「百周年記念事業」の実施・推進のための資金については、主として教職員、卒業生を始めとする個人及び企業等の法人・団体からの寄附金で賄うこととしており、このため 2006 年（平成 18 年）から教職員を手始めに「百周年記念事業募金」への協力を呼びかけ、厳しい経済環境の中にもかかわらず多くの方々からのご協力・ご支援を頂きました。「百周年記念事業」の事業内容の多くは、継続して事業を展開していくことで効果がより発揮されるものであるため、皆様からの寄附金を原資にして「九州大学基金」を創設し、資金の有効活用を図ることとしました。

なお、百周年記念事業募金活動は、東日本大震災に鑑み平成 23 年 9 月まで自粛することにし、10 月から、九州大学基金事業活動に引き継ぐことにしました。九州大学基金の更なる充実のために、今後も皆様のご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

「九州大学基金」には、百周年記念事業の事業全般に亘る特に使途を特定しない寄附金を原資とするもの、使途を特定した寄附を原資とするものに大別されますが、次のような事業を行うこととしています。

学生・留学生・教職員への支援

○　教育・研究・診療活動の充実とそのための環境整備の支援

○　奨学金等の充実、就学環境・学習環境の充実への支援

○　国際・社会・文化・体育活動充実への支援・助成

○　若手研究者への支援

○　キャンパス内の環境整備・美化の支援

卒業生との連携

○　大学との連携活動等の支援

○　同窓会との連携

社会・企業との連携

○　産学連携・地域連携等の支援

○　生涯学習時代に対応する社会人等の受け入れ推進事業

寄附の使途を特定した事業

○　特定目的の研究センターの運営

○　寄附講座の運営

○　対象分野を特定した教育研究支援

その他

○　基金の目的達成に必要な事業

3.　記念事業の実施体制

百周年記念事業を推進するための体制・組織は、学内では百周年記念事業委員会（委員長：有川節夫総長）を中心に百周年記念事業の実施方針及び実施計画の策定を行い、百周年記念事業委員会の下に専門委員会、各委員会、各部会、百年史編集室を設置し、実施方針・計画の具体化に向けての活動を行ってきました。

また、百周年記念事業推進室を設置し、コーディネーター及び協力教員を配置して、募金活動（コーディネーター）及び記念事業活動への助言（協力教員）を行いました。

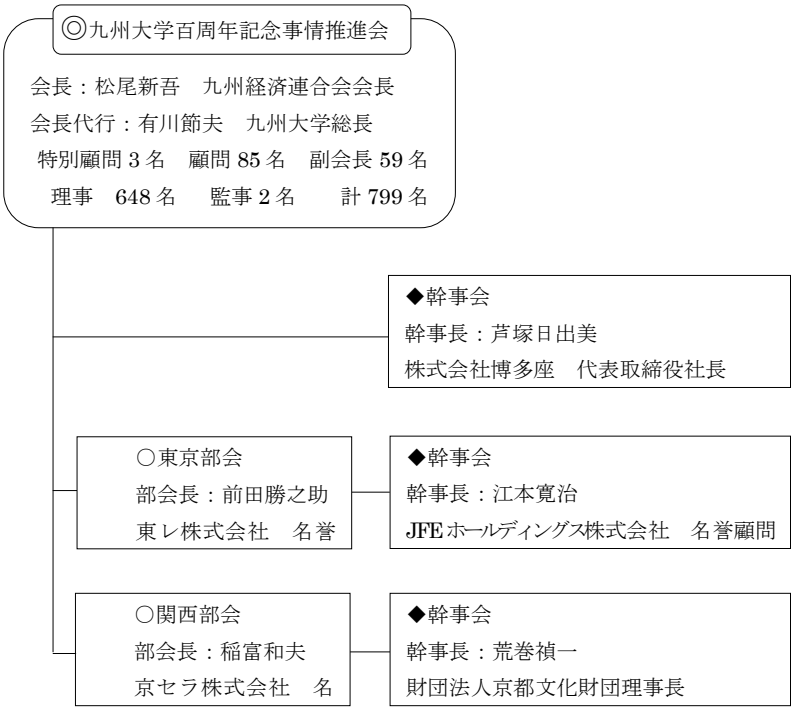
学外との連携において、学外の支援組織である「九州大学百周年記念事業推進会」（会長：松尾新吾九州経済連合会会長）の協力の下、主として企業・団体等への百周年記念事業募金の活動を展開してきました。その他、九州大学の各同窓会にも多くの

協力を頂きました。

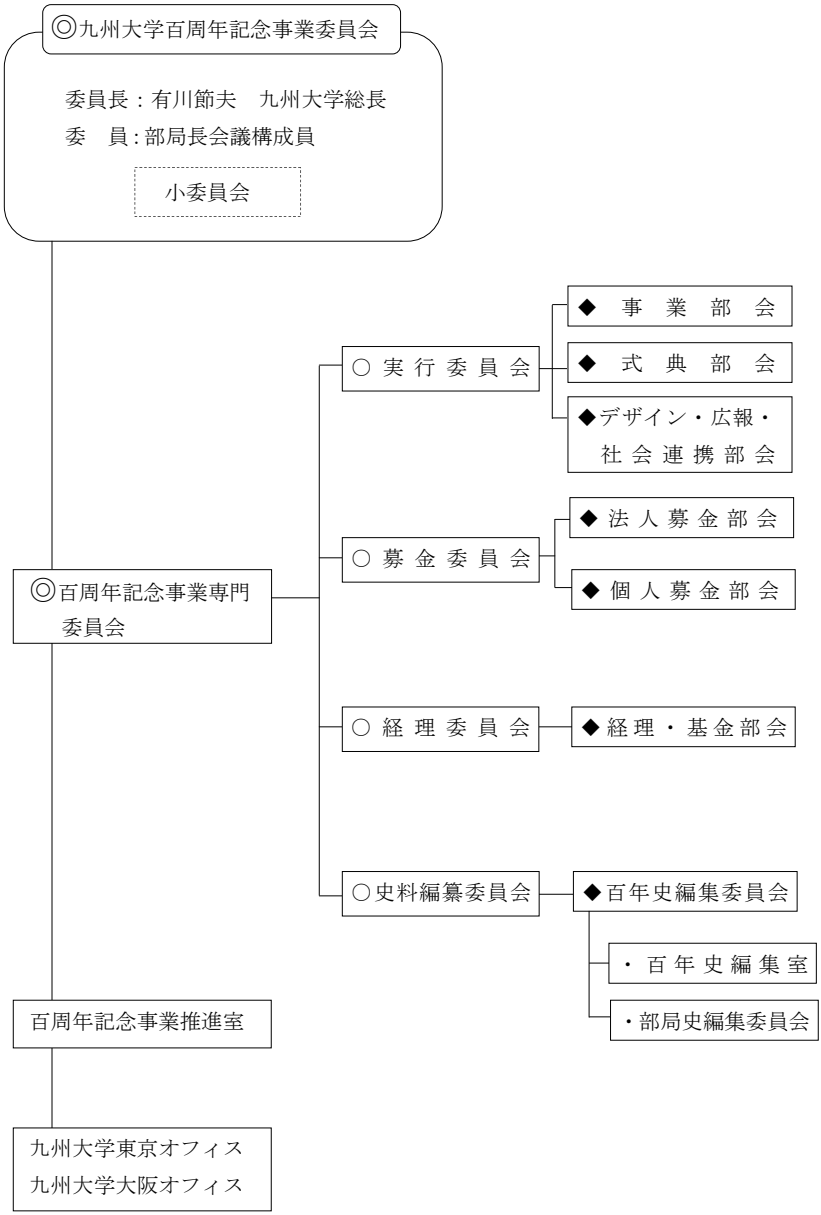
学外の支援体制

（体制・組織図）

（敬称略）



学内の実施体制


◎九州大学百周年記念事業委員会
委員長：有川節夫　九州大学総長
委　員：部局長会議構成員
小委員会
◎百周年記念事業専門委員会
○ 実 行 委 員 会
◆ 事 業 部 会
◆ 式 典 部 会
◆デザイン・広報・社 会 連 携 部 会
○ 募 金 委 員 会
◆ 法 人 募 金 部 会
◆ 個 人 募 金 部 会
○ 経 理 委 員 会
◆経理・基金部会
○史料編纂委員会
◆百年史編集委員会
・ 百 年 史 編 集 室
・部局史編集委員会
百周年記念事業推進室
九州大学東京オフィス
九州大学大阪オフィス

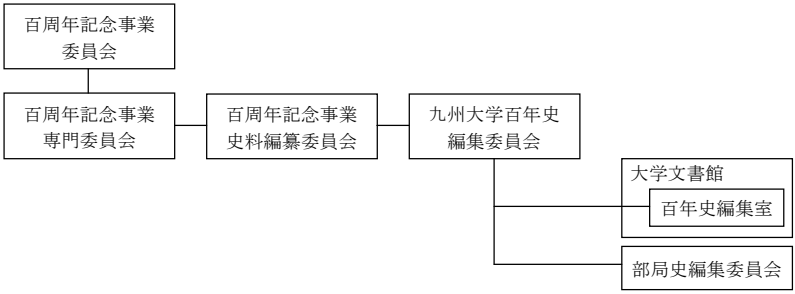
4.『九州大学百年史』の刊行

九州大学の百年にわたる歴史、伝統を記録に留めるとともに、これまでの本学の教育研究の成果等を内外に積極的に公開し、アピールすることを目的として、『九州大学百年史』の編纂を行っています。

『九州大学百年史』は、通史編（3 巻）、部局史編（4 巻）、資料編（3 巻）及び写真集の計 11 巻から構成され、平成 28 年度までの完成を目指しています。各巻は、WEB 上で公開するとともに、印刷冊子も作成する予定です。

○編集体制

『九州大学百年史』の編纂は、百周年記念事業の 1 つとして企画され、平成 19 年 9 月に第 1 回の編集委員会が開催されました。その後平成 21 年 1 月に大学文書館内に百年史編集室が設置され、同年 4 月准教授・助教各 1 名が専任教員として着任、編纂事業が本格的に開始されました。



○刊行計画

	巻名	内容	刊行（公開）予定
第 1 巻	通史編Ⅰ	1867 年～1949 年（創立前史～新制大学発足前）	平成 26 年度
第 2 巻	通史編Ⅱ	1949 年～1994 年（新制大学発足～教養部廃止）	平成 27 年度
第 3 巻	通史編Ⅲ	1994 年～2011 年（教養部廃止後～創立百周年）	平成 28 年度
第 4 巻	部局史編Ⅰ	文・比較社会文化・教育・人間環境・法・法務・経済・言語文化	平成 25 年度
第 5 巻	部局史編Ⅱ	理・数理・医・歯・薬・工	平成 26 年度
第 6 巻	部局史編Ⅲ	芸術工・システム情報科学・総合理工・農・システム生命科学・統合新領域・高等研究院・生体防御医学研究所・応用力学研究所・先導物質化学研究所・情報基盤研究開発センター・健康科学センター・病院・図書館	平成 26 年度
第 7 巻	部局史編Ⅳ	学内共同教育研究施設・機構・情報統括本部・推進室等・事務局・（旧）教養部	平成 27 年度

第 8 巻	資料編Ⅰ	1867 年～1969 年（創立前史～大学紛争）	平成 25 年度
第 9 巻	資料編Ⅱ	1969 年～2011 年（大学改革～創立百周年）	平成 26 年度
第 10 巻	資料編Ⅲ	一覧・統計・年表	平成 28 年度
別巻	写真集	九州大学創立前史からの歴史的写真及び現況写真	平成 23 年度

※内容・刊行時期は変更される場合があります。

5. 寄贈建物

稲盛財団記念館

○稲盛財団記念館について

稲盛財団記念館は、公益財団法人稲盛財団（理事長 稲盛和夫氏）より、国立大学法人九州大学が 2011 年に創立百周年を迎えるにあたり、ご寄贈いただいた施設です。

世界中の人が集い交流を深めながら、人類と社会に貢献するための「知の新世紀を拓く」新しい教育研究拠点を構築するという本学の趣旨にご賛同いただき、伊都キャンパス内に建設されました。

建物 1 階には、人類の平和と繁栄に貢献することを目的とする稲盛財団の活動を、伊都キャンパスを訪れる研究者、文化人、並びに将来を担う子ども達を含む一般市民にも広く紹介するための展示施設として「京都賞ライブラリー」と、海外の大学や研究機関などとの学術・文化交流の場として活用する「稲盛ホール」を設置しています。

建物の 2 階から 4 階には、将来の安心・安全な社会に貢献するため、人と技術の調和、心と技術の調和に貢献する研究活動を行うとともに、若手研究者の交流と育成を推進することを目的とした「稲盛フロンティア研究センター」を設置しています。次世代技術の焦点である「次世代環境技術」、「次世代エネルギー」、「次世代機能性分子超構造」、「次世代エレクトロニクス材料」の 4 研究分野を推進しています。九州大学の研究リソースを最大限活用して、世界中から人が集まり、交流を深めながら、人類と社会の進歩発展のために貢献する教育研究拠点を、九州の地に構築します。

九州大学は、この稲盛財団記念館を、教育研究や国際交流及び地域交流を推進する中核拠点、社会に広く開かれた大学の象徴として活用してまいります。

○稲盛財団記念館名誉館長

梶山千里（九州大学前総長）

○概　要

場　　所：福岡市西区元岡 744 番地（伊都キャンパス）

構造・階数：鉄筋コンクリート造・地上 4 階

床　面　積：約 3,400m²

着　　工：平成 20 年 8 月

竣　　工：平成 21 年 8 月

6. 記念事業(1)

(1)九州大学基金の創設

質の高い教育研究活動の支援、そのための環境整備等のために活用するため、百周年記念募金による寄附金等を原資とした「九州大学基金」を創設しました。

(2)奨学金の創設

「百周年記念事業」への支援として、次のとおり本学学生を対象とする「奨学資金」のご寄附をいただきました。

名　　称：利章奨学金
対　　象：2 年次以上の学部学生
給 付 人 数：各年次 3 名程度
給 付 金 額：月額 10 万円

名　　称：三井物産奨学資金
対　　象：2・3 年次（2011 年のみ）の学部学生
給 付 人 数：12 名
給 付 金 額：年額 50 万円

(3)センター・寄附講座の開設

百周年記念事業のコンセプト「知の新世紀を拓く」ための人材養成の一環として、寄附者から以下のような「センター」、「寄附講座」の申し出があり、21 世紀を展望した諸問題に対する解決の契機を与える時宜を得た講座であり、本学教育の充実・発展にも大いに貢献しています。

セ ン タ ー 名：稲盛フロンティア研究センター
設 置 期 間：H20. 4. 1～
部　　局：学内共同教育研究施設
設 置 目 的：2050 年の社会を展望し、21 世紀の人類に共通する課題を対象として、人が安心、安全にそして快適に生活でき、それが持続可能な社会の実現を目指して、次世代技術の焦点である「次世代環境技術」、「次世代エネルギー」、「次世代機能性分子超構造」、「次世代エレクトロニクス材料」の 4 研究分野を柱と位置付け、学際的な研究を推進する。
寄　附　者：公益財団法人稲盛財団、京セラ株式会社

センター名：ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）
設置期間：H22.12.1～
部　　局：学内共同教育研究施設
設置目的：九州大学の全学学生を対象に、先進的かつ体系的なアントレプレナーシップ関連教育を提供することにより、自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造にチャレンジするリーダー人材の輩出を目的とする。
寄附者：ロバート・ファン氏

講座名：アジア財務戦略講座（連携講義）
設置期間：H.20.6.1～23.3.31
部　　局：大学院　経済学研究院
設置目的：アジアの主要経済・金融センターの調査見学、変動するアジアのビジネス・金融の現状認識と将来展望を描けることを目的とする。
寄附者：株式会社福岡銀行

講座名：大学院共通教育　研究・技術経営論講座
設置期間：H.20.7.1～23.3.31
部　　局：知的財産本部
設置目的：九州大学で自然科学系の教育を受けかつ研究に従事する学生に対し、実業界を含めた多様な経験と知識を持った講師陣が、研究マネジメント、技術マネジメントに関する講義を行って、大学における研究の意義、目的、社会的位置づけ、方法等を再考する。また技術の活用方法、実用化のありかた等を学ぶ機会を提供し、今後の研究や学問への取り組み、意欲の向上と目標設定、学び方の指針を与えることを目的とする。講義はいわゆる技術マネジメント（MOT）の総合的かつ基礎的講義であり、大学内外で活躍する複数の講師が毎回講義形式にて専門分野の知見を教授する。
寄附者：株式会社福岡銀行

講座名：若手企業人・学生のための国際経済・経営講座（共同講義）
設置期間：H.22.5.13～25.3.31
部　　局：大学院　経済学研究院
設置目的：マクロ経済、経営、財政金融などの基礎的講座に加え、国際金融・

経済の動向など最新情報をテーマに、国際経済・経営等グローバル経済に対する理解、国際情勢に関する感応度を高めることを目的として、若手企業人、学生に対して講義を行う。

寄　　附　　者：株式会社西日本シティ銀行

講　　座　　名：エア・リキード水素構造材料・破壊学講座
設　置　期　間：H.22.10.1～25.9.30
部　　局：大学院　工学研究院
設　置　目　的：水素社会構築において基盤となる水素利用機器の安全性確保のために、水素環境下で使用される構造材料とその強度に関する教育と研究を、他講座と連携して行う。
寄　　附　　者：エア・リキード SA、日本エア・リキード株式会社

講　　座　　名：極限環境微生物ゲノム機能開発学講座
設　置　期　間：H.22.10.1～27.9.30
部　　局：大学院　農学研究院
設　置　目　的：極限環境微生物のゲノム情報を有効に利用し、ゲノムを構成する遺伝子機能を生化学や遺伝子工学的、バイオインフォマティックスなどの手法を用いて解析することにより、基礎生命科学だけでなく、医療、農業、工業などの産業や環境保全・改善など様々な応用分野における大きな進展を図ることを主な目的とする。
寄　　附　　者：財団法人発酵研究所

講　　座　　名：日本ガス協会水素製造システム講座
設　置　期　間：H.23.4.1～26.3.31
部　　局：大学院　工学研究院
設　置　目　的：水素エネルギー社会構築のための国際的教育研究拠点を形成するため、再生可能エネルギーや都市ガス等による水素製造技術に関する教育と研究、及び水素製造技術全般に関する教育を行うことを目的とする。
寄　　附　　者：社団法人日本ガス協会

(4)百周年記念物の制作　出版物、パネル、楽曲

●出版物

『九州大学百年史写真集』平成 23 年 8 月

編集：九州大学大学文書館／発行：九州大学百周年記念事業委員会

「九州大学百年史」の 1 巻目として刊行。創立前史以来 130 年以上の歴史（写真）を収め、九州大学だけではなく、地域との関係も解るように編集している。

『九州大学百年の宝物』平成 23 年 2 月

編者：九州大学百年の宝物刊行委員会／発行所：丸善プラネット株式会社

九州大学が 100 年の間に蒐集した研究資料、図書、標本、芸術作品等、多様でユニークなコレクションの中から百点を精選し刊行した。

『九州帝国大学初代総長　山川健次郎』平成 23 年 5 月

編集・発行：九州大学百周年記念事業推進室

大学自治の父と呼ばれた山川初代総長がどのような人物だったのかを紹介。特に若い人々が、本書を通じて初代総長の意志に触れそれを心に留め、「知の拠点九州大学」の新たな百年の歴史を築いていくことを願い作成した。

『九州大学創立百周年記念事業報告書』平成 23 年 8 月

発行：九州大学総務部百周年記念事業推進課

九州大学百周年記念事業を記録として残すために作成した。

●パネル

「九州大学百周年記念写真パネル」

九州大学の百年の歴史を振り返る写真パネル 161 枚を制作した。

●楽　曲

『九大百年祝典序曲』平成 23 年 5 月

作曲：中村　滋延（大学院芸術工学研究院コンテンツ・クリエーティブデザイン部門教授）

九州福岡の歴史を感じさせる民謡からの旋律、大学生活の様子を描いたテンポの早い音楽、九州大学学生歌及び応援歌、の 3 つを織り交ぜ、「九大百年」を祝う音楽として作曲された。

『組曲「杜の鼓動」第 2 番』平成 23 年 4 月

作曲：丸本　大悟（株式会社 T.S.P.I. 専属作曲家。マンドリン・デュオ「プラネット・スピリタ」マンドラ奏者）

作曲家丸本大悟氏に依頼し、マンドリン演奏のための九州大学創立百周年記念曲として作曲された。

(5)「九州大学博多駅オフィス」の開設

2011 年（平成 23 年）3 月 3 日、JR 博多シティ 10 階に「九州大学博多駅オフィス」を開設しました。九州大学博多駅オフィスは、都心部における九州大学の情報発信及び収集の拠点とともに産学連携活動や同窓生の交流活動などにも利用いただけます。

また、同フロアの会議室を使って「九州大学ビジネス・スクール」の授業を行います。

このような都心部における積極的な情報発信・収集を行うことで九州大学のブランド力・認知度を更に高め、産学連携・地域連携等の新たな展開や活動の推進・活性化を図ります。

更にビジネス・スクールの博多駅オフィスでの開講は、2011 年 3 月に九州新幹線の全線開通が実現したことにより受講生の皆さんの利便性が増し、九州のより広い地域からの受講の機会が得られることとなり、百周年記念事業の一つである「生涯学習時代に対応する社会人等の受入れ推進」に寄与するものと期待されます。

※開館日・時間や利用案内についての詳細は九州大学のホームページ
(http://www.kyushu-u.ac.jp)をご覧下さい。

7. 記念事業(2)

九州大学の創立 100 周年を記念する様々な催事を、学内外から企画し開催してまいります。しかしながら 2011 年（平成 23 年）5 月に予定していました創立百周年記念式典等につきましては、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による深刻な社会状況を考慮して、1 年程度延期することといたしました。

(1)九大百年開学式

2011 年（平成 23 年）5 月 13 日（金）、伊都キャンパスの稲盛財団記念館において九大百年開学式が開催されました。学内外の関係者による創立百周年記念式典は前述のとおり延期いたしましたが、学内関係者のみによる「九大百年開学式」を開催して百年の節目、区切りといたしました。

開学式では、有川節夫総長から、「知の新世紀を拓く」とのコンセプトによる「自立的に改革を続け、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の教育研究拠点となることを基本理念として、これからの百年の発展を築いていく」との大学の将来像についての力強い挨拶がありました。続いて本学学生から応募があったチャレンジ精神、起業家精神に富んだ研究・実践プロジェクト、C&C（チャレンジ・アンド・クリエイション）プロジェクトのうち特に優秀なプロジェクトに対して総長賞の表彰があり、受賞者から研究成果の発表がありました。

また、本学の創立百周年を記念し、芸術工学研究院の中村滋延教授作曲による「九大百年式典序曲」が中村教授から贈呈されました。

(2)山川健次郎初代総長胸像設置式

山川健次郎初代総長の出身地、福島県会津若松市では山川健次郎生誕 150 年を記念して胸像建立に取り組むなど山川初代総長の業績が高く評価されており、本学は九州

大学創立百周年を機に会津若松市に対して市の所蔵する山川初代総長の胸像の寄贈を要請したところ、関係者の多大のご尽力により寄贈頂くことになりました。2011 年（平成 23 年）5 月 13 日（金）、九大百年開学式の後伊都キャンパス・センターゾーンで胸像設置式が行われました。胸像の台座には、山川初代総長が九大赴任時に学生への訓示の中で述べた「修養が広くなければ完全な士と云ふ可からず」という現在、未来に通ずる普遍的な人間の在り方、理想を示す文言が記されています。

⑶記念講演会・フォーラム・シンポジウム、特別講座、展示等

※　平成 23 年 7 月 31 日現在、開催が決定している催事を掲載しています。

●シリーズ　創立百周年記念講演会

平成 23 年 3 月 1 日（火）

第 1 回 九州大学創立百周年記念講演会「和本リテラシーの回復を願って」

九州大学名誉教授　中野 三敏 氏

会場：箱崎キャンパス 中央図書館 4 階 視聴覚ホール

担当：箱崎文系地区協議会／附属図書館

平成 23 年 5 月 16 日（月）

第 2 回 九州大学創立百周年記念講演会

「医薬品行政の国際的展開～アジアにおける協力を中心として～」

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事（技監）　川原　章 氏

会場：病院キャンパス コラボステーション I

担当：薬学研究院

平成 23 年 5 月 28 日（土）

第 3 回 九州大学創立百周年記念講演会

高速鉄道シンポジウム「夢のレール―鉄道が描く未来」

漫画家　松本 零士 氏、

社団法人 海外鉄道技術協力協会 常務理事 秋山 芳弘 氏

会場：JR 博多シティ JR 九州ホール

担当：工学研究院

平成 23 年 6 月 4 日（土）

第 4 回 九州大学創立百周年記念講演会「スマート化とは何か」

株式会社 NTT データ経営研究所 社会・環境戦略コンサルティング本部　村岡 元司 氏

会場：筑紫キャンパス C-cube 筑紫ホール

担当：筑紫キャンパス部局

平成 23 年 6 月 18 日（土）

第 5 回 九州大学創立百周年記念講演会

「ライフサイエンス革命によるゲノム情報社会の将来形成」

国立遺伝学研究所 副所長 教授 五條堀 孝 氏

会場：病院キャンパス コラボステーション I

担当：システム生命科学府

平成 23 年 6 月 20 日（月）

第 6 回 九州大学創立百周年記念講演会「地球の未来について考える

～ユネスコ事務局長 10 年の経験を通して今思うこと～」

元ユネスコ事務局長　松浦 晃一郎 氏

会場：伊都キャンパス 稲盛財団記念館

担当：言語文化研究院

平成 23 年 7 月 9 日（土）

第 7 回 九州大学創立百周年記念講演会「アニメの方程式」

株式会社オー・エル・エム・デジタル取締役

ビジュアルエフェクト / R&D スーパーバイザー　安生 健一 氏

会場：伊都キャンパス 稲盛財団記念館

担当：高等教育開発推進センター

平成 23 年 7 月 23 日（土）

第 8 回 九州大学創立百周年記念講演会「歯科医療の現状と将来の夢」

九州歯科大学 教授　日高 勝美 氏 / 東京理科大学 教授　辻 孝　氏

会場：病院キャンパス 歯学部講義室

担当：歯学研究院

平成 23 年 8 月 20 日（土）

第 9 回 九州大学創立百周年記念講演会

「自然との共生社会の実現に向けた「農」の役割」

社団法人農林水産先端技術産業振興センター　理事長　岩元 睦夫 氏

会場：箱崎キャンパス 国際ホール

担当：農学研究院

平成 23 年 8 月 20 日（土）

第 10 回 九州大学創立百周年記念講演会「栄養常識を斬る：「あぶら」は危険？」

九州大学名誉教授／熊本県立大学名誉教授　管野 道廣 氏

会場：箱崎キャンパス 国際ホール

担当：農学研究院

平成 23 年 9 月 22 日（日）

第 11 回 九州大学創立百周年記念講演会

「情報通信技術で“つながる”世界、そして“つながる”未来へ」

NTT コミュニケーションズ株式会社　取締役相談役　和才 博美 氏

会場：伊都キャンパス 西講義棟第 1・第 2 講義室

担当：システム情報科学研究院

●講演会・フォーラム・公開講座・セミナー等

平成 23 年 3 月 5 日（土）

エネルギーベストミックス福岡セミナー

会場：筑紫キャンパス C-cube 筑紫ホール

担当：炭素資源国際教育研究センター

平成 23 年 3 月 26 日（土）

九州大学創立百周年記念公開講演会・総合研究博物館創立十周年記念フォーラム

「どうする、どうなる！？九州大学の標本資産

―これからの博物館と運営のあり方―」

会場：箱崎キャンパス 旧工学部本館

担当：総合研究博物館

平成 23 年 4 月 22 日（金）

工学部百周年記念講演会　自然災害フォーラム　九大 2011

―最近の突発災害における経験と教訓、将来に向けて―

会場：病院キャンパス　医学部 100 年記念講堂

担当：西部地区自然災害資料センター

平成 23 年 4 月 22 日（金）

工学部百周年記念講演会　「建築教育の国際化」

バージニア工科大学都市建築学部・学部長 / 教授　ジャック・デイビス氏

会場：箱崎キャンパス 旧工学部本館大講義室

担当：人間環境学研究院 都市・建築学部門

平成 23 年 5 月 9 日～11 日

工学部百周年記念講演会　2011 分子システム科学国際シンポジウム

会場：海の中道ルイガンズ

担当：工学研究院 応用化学部門、応用化学分子システム科学センター

平成 23 年 5 月 16 日（月）～5 月 19 日（木）

九大百周年記念イベント

「木質バイオマスの実演　大学の緑を利用して CO_2 削減を

―木質バイオマスの循環利用―」

会場：箱崎キャンパス / 伊都キャンパス / 九州大学福岡演習林 早良実習場　等

担当：農学研究院 環境農学部門 森林計画学

平成 23 年 5 月 20 日（金）

工学部百周年記念講演会　未来化学創造センターシンポジウム

会場：伊都キャンパス　稲盛財団記念館　稲盛ホール

担当：未来化学創造センター、工学研究院 応用化学部門

平成 23 年 5 月 28 日（土）～7 月 2 日（土）

公開講座　「21 世紀の教養教育」

会場：伊都キャンパス

担当：言語文化研究院

平成 23 年 6 月 11 日（土）

九州大学創立百周年記念講演会「新しい時代の情報図書館学へ向けて」

国立国会図書館長　長尾 真　氏

会場：箱崎キャンパス 中央図書館 4 階 視聴覚ホール

担当：文学部 / 統合新領域学府 ライブラリーサイエンス専攻 / 附属図書館

平成 23 年 6 月 17 日（金）

九州大学創立百周年記念 寄附講座開設記念式典・シンポジウム

「極限環境微生物の理解と遺伝子資源利用を目指して」

会場：西新プラザ

担当：農学研究院 微生物遺伝子工学分野 極限環境微生物ゲノム機能開発学講座

平成 23 年 7 月 9 日（土）

九州大学創立百周年・統合移転事業環境監視調査十周年記念フォーラム

「九州大学移転事業における環境保全の取り組み

―都市と大学のサステナブルな環境づくり―」

会場：福岡市庁舎 15 階 講堂

担当：新キャンパス計画推進室

平成 23 年 7 月 14 日（木）

日本学術振興会　二国間交流事業セミナー

「日米における遺伝子・細胞療法のトランスレーショナルリサーチの現状」

会場：病院キャンパス 医学部百年講堂

担当：生体防御医学研究所

平成 23 年 7 月 16 日～18 日

工学部百周年記念講演会　超伝導材料と応用に関する日韓ワークショップ

会場：沖縄国際会議場

担当：システム情報科学研究院 電気システム工学部門

平成 23 年 7 月

工学部百周年記念講演会

Joint Workshop on ISEE between Kyushu University and Ruhr Univ. Bochum

会場：ルール大学、ドイツ

担当：システム情報科学研究院 情報エレクトロニクス部門

平成 23 年 8 月 20 日（土）～21 日（日）

九州大学創立百周年記念事業　第 3 回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会

会場：ホテル白菊（大分県別府市）

担当：生体防御医学研究所ゲノム制御学部門

平成 23 年 8 月 27 日（土）

九州大学創立百周年記念特別講演会「教育、行政、そして文学」

福岡県副知事　海老井 悦子　氏

会場：箱崎キャンパス中央図書館 4 階 視聴覚ホール

担当：文学部同窓会、文学部

平成 23 年 9 月 4 日（日）

市民講演会（2011 年続計関連学会連合大会）

「若紫やさぶらう―いま『源氏物語』をコンピュータで読む」

同志社大学　村上 征勝 氏

「新学習指導要領で目指すもの―統計の内容を中心に」

国立教育政策研究所　長尾 篤志 氏

会場：アクロス福岡

担当：数理学研究院

平成 23 年 9 月 20 日（火）

九州大学創立百周年記念講演会「日産のグローバル戦略と九州の役割（仮称）」

日産自動車株式会社　社長兼最高経営責任者（COE）九州大学名誉博士

カルロス・ゴーン氏

会場：伊都キャンパス　稲盛財団記念館　稲盛ホール

担当：統合新領域学府

平成 23 年 9 月 20 日（火）

工学部百周年記念講演会　既存文教施設の耐震化技術に関する研究報告会

会場：福岡ガーデンパレス

担当：人間環境学研究院 都市・建築学部門

平成 23 年 9 月 28 日（水）

工学部百周年記念講演会

The 4th International Workshop on Energy and Environment in Chemical Engineering

会場：伊都キャンパス

担当：工学研究院 化学工学部門

平成 23 年 10 月 8 日（土）

工学部百周年記念講演会

21 世紀の船舶海洋分野を担う人材育成に関するシンポジウム（仮称）

会場：伊都キャンパス

担当：工学研究院 海洋システム工学部門

平成 23 年 11 月 8 日（火）～9 日（水）

The 7th International Conference on Clean Coal Technology and Fuel Cells

会場：筑紫キャンパス 総合研究棟等（筑紫ホール、3F ロビー、総理工第 3 講義室）

担当：炭素資源国際教育研究センター

平成 23 年 11 月 13 日（日）

2011 年　九州大学病院がんセンター市民公開講座

がんとどう向き合うか一緒に考えてみませんか

（Ⅰ）九州大学病院のがん診療

これからのがん診療　～縦糸と横糸～

（Ⅱ）特別講演　作家　片山　恭一　氏

「出発」としての死　～日本人の死生観をめぐって～

会場：病院キャンパス 医学部百年講堂

担当：九州大学病院がんセンター

平成 23 年 11 月 14 日（月）～16 日（水）

第 9 回　JBS バイオフロンティア国際シンポジウム（九州大学創立百周年記念）

「New Aspect of Phospholipid Biology and Medicine 2011（リン脂質機能の新機軸 2011）」

会場：ホテル・ルイガンス―スパ&リゾート―

担当：歯学研究院 口腔細胞工学

平成 23 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）

工学部百周年記念講演会　第 9 回構造物に作用する衝撃荷重に関する国際会議

会場：福岡国際会議場

担当：工学研究院 建設デザイン部門

平成 23 年 11 月 25 日

工学部百周年記念講演会　GCOE 国際シンポジウム

会場：伊都キャンパス　稲盛財団記念館　稲盛ホール

担当：工学研究院 応用化学部門

平成 23 年 11 月

九州大学創立百周年記念「グローバル化する世界と多様性」

九州大学生物多様性戦略国際シンポジウム

『持続可能な自然共生社会の基盤としての生態学と生物多様性科学』

会場：伊都キャンパス 稲盛財団記念館 稲盛ホール

担当：九州大学 / 理学研究院 / 農学研究院 / 工学研究院 /
東アジア環境研究機構 / アジア保全生態学センター

平成 23 年 11 月（予定）

工学部百周年記念講演会

Joint Workshop on ISEE between Kyushu University and ENSEEIHT

会場：ENSEEIHT, フランス

担当：システム情報科学研究院 情報知能工学部門 実世界ロボティクス

平成 23 年 11 月～12 月（予定）

工学部百周年記念講演会

Kyushu University-KAIST Joint Workshop on Aerospace Engineering

会場：伊都キャンパス

担当：工学研究院 航空宇宙工学部門

平成 23 年 12 月 8 日（木）

工学部百周年記念講演会　アジア・アフリカ鉱物資源会議

会場：伊都キャンパス　稲盛財団記念館　稲盛ホール

担当：工学研究院 地球資源システム工学部門

平成 24 年 1 月

九州大学創立百周年記念「グローバル化する世界と多様性」

九州大学文化多様性国際シンポジウム

『文化多様性―Cultural diversity in a hundred years: prospects and policies―』

会場：九州大学西新プラザ 大会議室

担当：九州大学 / 法学研究院 / 比較社会文化研究院 / 人文科学研究院 /
経済学研究院

平成 24 年 5 月（予定）

工学部百周年記念講演会 九州大学 100 周年記念事業：日韓材料科学シンポジウム

会場：伊都キャンパス

担当：工学研究院 材料工学部門 材料反応工学

●百周年記念特別講座

平成 22 年 10 月 9 日（土）～平成 23 年 1 月 8 日（土）

九州大学百周年記念事業特別講座「九州大学の歴史と芸術」（全 5 回）

会場：箱崎キャンパス 21 世紀交流プラザ I

担当：総務部社会連携課 / 朝日カルチャーセンター

平成 23 年 4 月 9 日（土）～9 月 24 日（土）

九州大学百周年記念事業特別講座

「九大 100 年　お宝大集合 ～仙厓さんもおカイコさんも全学から発掘」（全 12 回）

会場：箱崎キャンパス 21 世紀交流プラザ I

担当：総務部社会連携課 / 朝日カルチャーセンター

●展示

平成 23 年 5 月 7 日（土）～5 月 30 日（月）

九州大学創立百周年記念　九州大学学術標本・貴重資料パネル展

（総合研究博物館学術標本コレクション・附属図書館貴重資料パネル）

会場：福岡空港 国内線第 3 ターミナルビル 1 階ロビー

担当：総合研究博物館 / 附属図書館

平成 23 年 5 月 10 日（火）～5 月 16 日（月）

第 52 回附属図書館貴重文物展示 「九州大学百年の宝物―附属図書館貴重資料コレクション―」

会場：紀伊國屋書店福岡本店イベントスペース（博多バスターミナル 6F）

担当：附属図書館

平成 23 年 5 月 22 日（日）～5 月 29 日（日）

九州大学創立百周年記念・九州大学総合研究博物館特別企画

『旧工学部知能機械実習工場空間展示「Breathing」』

会場：箱崎キャンパス 総合研究博物館第 1 分館倉庫（旧工学部知能機械実習工場）

担当：総合研究博物館

平成 23 年 7 月～

九州大学創立百周年記念・九州大学総合研究博物館オンライン博物館

「九州大学医学研究院皮膚科学分野保存　ムラージュ（ロウ製皮膚病型模型）」

開催場所：九州大学総合研究博物館オンライン博物館

http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/MOULAGE2011/index.html

担当：医学研究院皮膚科学

スライド映写機やコンピューターがない頃の医学教育の一つの方法として、ムラージュが作製されました。ムラージュとはロウ細工のことです。スライドがない当時の皮膚科学の講義には欠かせないものでした。

九州大学皮膚科学教室のムラージュは、福岡美術会を組織した新島伊三郎（嘯風）によって 700 体ほど作成されたという記録があり、今でも授業で使用しています。ぜひ、オンライン博物館をご覧ください。

平成 23 年 8 月 27 日（土）

「写真でみる九大百年」展

会場：箱崎キャンパス 中央図書館 4 階 会議室

担当：文学部同窓会、文学部

平成 23 年 9 月 5 日（月）

工学部百周年記念展示室『CENTENNIAL GALLERY』オープニングセレモニー

会場：伊都キャンパス ウエスト 4 号館 1 階ロビー

担当：工学研究院

平成 23 年 11 月 15 日（火）～12 月 18 日（日）

「九州大学百年の宝物」展

会場：九州国立博物館

担当：総合研究博物館

平成 23 年 11 月 15 日（火）～12 月 18 日（日）

写真で見る「九大百年」展

会場：九州国立博物館

担当：九州大学

●学内研究施設公開

平成 23 年 5 月 10 日（火）

学内研究施設公開　福岡演習林資源植物園の公開

会場：農学部附属演習林（福岡演習林）

担当：農学部附属演習林

平成 23 年 6 月 4 日(土)

筑紫地区キャンパス開放

筑紫地区にある大学院、研究所、センター、各種実験施設を一般公開し、小～高校生向けの科学実験やロケット打ち上げを実施。また、「大学院受験相談コーナー」も開催。

会場：筑紫キャンパス

担当：筑紫キャンパスの部局

平成 23 年 8 月 7 日（日）

学内研究施設公開　低温センター、超伝導システム科学研究センター合同による研究施設公開

会場：伊都キャンパス

担当：低温センター / 超伝導システム科学研究センター

●スポーツ・コンサート・イベント

平成 21 年 5 月 3 日（日・祝）

博多どんたく港まつり

「九州大学まなびたい」としてパレードに初出場～本学の学生・卒業生・教職員など総勢 200 名参加～

平成 21 年 11 月 3 日（火・祝）

第 1 回 QU ウォーク～西公園から伊都キャンパスまで歩こう～

担当：健康科学センター

平成 22 年 5 月 3 日（月・祝）

博多どんたく港まつり

「九州大学まなびたい」としてパレードに出場～本学の学生・留学生・卒業生・教職員など総勢 200 名参加～

平成 22 年 11 月 3 日（水・祝）

第 2 回 QU ウォーク～箱崎キャンパスから伊都キャンパスまで歩こう～

担当：健康科学センター

平成 23 年 4 月 17 日（日）

九州大学創立 100 周年記念　第 3 回ツール・ド・糸島 サイクリング大会

会場：糸島市志摩中央公園広場（スタート・ゴール）

担当：総合型地域スポーツクラブ　スポーツ BRANDEX 福岡

平成 23 年 5 月 15 日（日）

九州大学創立百周年記念スペシャル・エキシビジョンマッチ

九州大学アメリカンフットボール部「PALOOKAS」vs 広島大学アメリカンフットボール部「RACCOONS」

会場：伊都キャンパス：陸上競技場

担当：九州大学 PALOOKAS

平成 23 年 6 月 29 日（水）

九州大学創立百周年記念　九大フィルハーモニーオーケストラ定期演奏会

会場：アクロス福岡シンフォニーホール

担当：九大フィルハーモニーオーケストラ

平成 23 年 11 月 3 日（木・祝）

第 3 回 QU ウォーク～大濠公園から伊都キャンパスまで歩こう～

担当：健康科学センター

平成 23 年 11 月 20 日（日）

祝九大 100 年！第 2 回糸島観にマラソン

第 2 回となる今年は、糸島市にキャンパスがある九州大学が、100 周年となる年です。糸島の豊かな自然環境を舞台に、ますます地域との交流が期待される九州大学､その 100 年の歴史を称える記念大会として開催いたします。

会場：可也小学校グラウンド

担当：系島観にマラソン実行委員会

(4)平成 24 年に開催する九州大学創立百周年記念行事について

九州大学は明治 44 年、20 世紀の日本を担う拠点大学として九州帝国大学が設立されて以来、平成 23 年に 100 周年を迎えましたが、同年 3 月 11 日の東日本大震災による深刻な社会状況を考慮し、同年 5 月に予定しておりました創立百周年記念行事を 1 年程度延期することといたしました。

改めて、平成 24 年 5 月に、本学の百年にわたる歴史、伝統、これまでの教育・研究・診療等の成果を広く発信・公開することを目的として、下記の記念行事を開催いたします。

平成 24 年 5 月 12 日（土）

九州大学創立百周年記念式典

会　　場：箱崎キャンパス 九州大学創立五十周年記念講堂 大講堂

九州大学創立百周年記念講演会

会　　場：箱崎キャンパス 九州大学創立五十周年記念講堂 大講堂

九州大学創立百周年記念祝賀会

会　　場：ホテルオークラ福岡

写真で見る「九大百年」展

会　　場：箱崎キャンパス

箱崎キャンパス公開

会　　場：箱崎キャンパス

平成 24 年 5 月 13 日（日）

九大 100 年まつり

会　　場：伊都キャンパス

初代総長胸像披露式

会　　場：伊都キャンパス

第 4 回 QU ウォーク～天神から伊都キャンパスまで歩こう～

スタート：天神中央公園

平成 24 年 5 月 26 日（土）

九州大学創立百周年記念コンサート

会　　場：アクロス福岡シンフォニーホール

(5)百周年記念公式ロゴマークの制定

九州大学は創立百周年を記念して、百周年を象徴する公式ロゴマークを制定しました。ロゴマークには、シンボルマーク（2007 年 12 月制定）と「九大百年」書（2011 年 1 月制定）の 2 種類があり、2 種類の組み合わせを含めて大きく分けて 4 つのパターンがあります。

a）シンボルマーク

九州大学百周年のスローガンである「知の新世紀を拓く」をテーマに、未来への無限大の可能性とダイナミズムが表現されています。2007 年 12 月から、百周年記念事業の一環として展開される様々な媒体や百周年記念行事等を表すもの（クレジット）として使用されてきました。

百周年記念事業シンボルマークのコンセプト／デザインは、九州大学 UI プロジェクトチームが制作しました。デザインを学ぶ学生の積極的な参加が、このプロジェクトの特徴となっています。

モチーフは「知恵の輪」

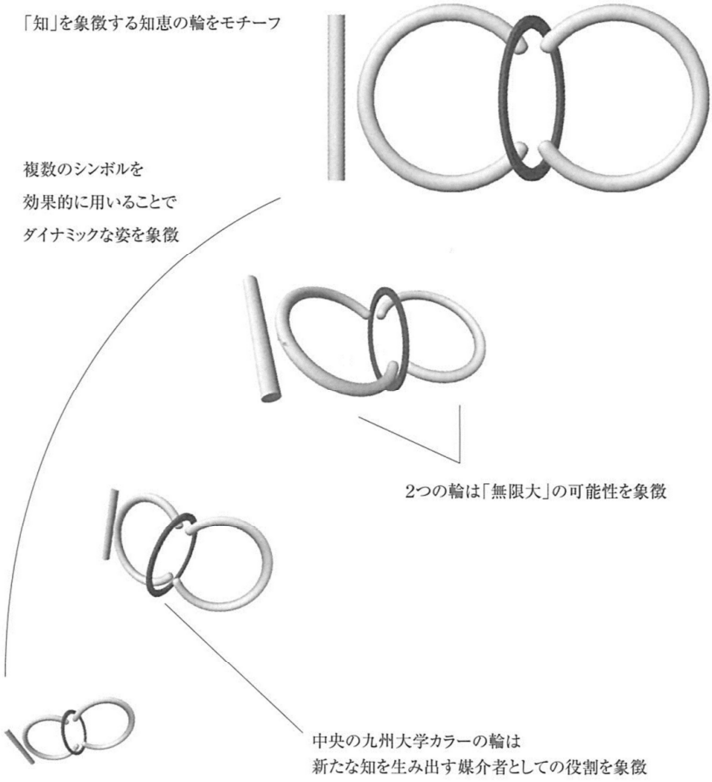
「知」の象徴としての知恵の輪は、非常に長い歴史を持ち、あらゆる地域、文化圏の中で独自の発達を遂げ、子どもから大人まで幅広く親しまれてきたものです。百周年シンボルマークは、知恵の輪を構成するパーツが「100」を連想させる形に並び、さまざまな角度から見た三次元のバリエーションを生み出します。絡み合った輪が象徴する困難な課題を解決に導く多様な知性が、動的な知恵の輪の造形に込められています。

空間の中にさまざまな角度で現れるメタリックな 2 つの輪は「∞（無限大）」の可

能性をイメージさせ、中央の九州大学カラーの輪は、変化する多様な「知」の可能性をつなぎ、新たな知を生み出す媒介者としての役割を象徴しています。

バリエーションの使用

シンボルマークを一種類に固定するのではなく、色々な角度から見た三次元の知恵の輪をサブタイプとしてバリエーション展開できることが特徴です。こうして多面的な視点、多様な知性、そして躍動するダイナミックな大学の姿を表現します。



b)「九大百年」書

九州大学の百周年は、百周年を節目としてこれまでの誇らしい歴史を再認識し、日本の、アジアの、世界の指導者たるべき自覚を持って新たな百年を切り拓いていくことを宣言するものです。そこで、「九大百年」書については、百周年を一過的な記念祝賀にとどめず、「九大百年」として今後の百年に立ち向かう決意を表明するものとして

います。2011 年 1 月から、記念式典が開かれる 2012 年 5 月まで、百周年記念事業を盛り上げ、百周年記念行事等を学内外に広報し浸透させるために使用しています。

c）デザインコンセプト

百周年記念事業シンボルマークと「九大百年」書を活用し、デザイン・広報・社会連携部会で、九州大学創立 100 周年デザインコンセプトを制作・展開しました。

デザインコンセプト 1 :「威風堂々」

先人たちの輝かしい足跡に思いを馳せ、幾多の社会問題にもたじろがず、広大な知の地平に未来を信じ、胸を張って困難に立ち向かう様をイメージし、デザインの基本方針を「威風堂々」としました。

デザインコンセプト 2 :「＋（プラス）九大」

九州大学は、研究、教育、社会連携、国際貢献の基本的な使命を果たし、その成果は広く社会に通じています。九州大学が加わることによって新たなフィールドが開かれる、という価値の概念を定着させます。＋（プラス）九大は外との関係を積極的にアピールするものです。

デザインイメージ

デザインコンセプトに沿って、「九大百年」は真っ向大上段から正統な表現であるものと考え、書を用いることとし、伊都キャンパスや九州大学病院の記銘サインの題字を書いていただいた柿沼康二氏に依頼しました。柿沼康二氏は、1970 年生まれの日本を代表する書家であり、伝統を踏まえながら力強い書の境地を拓いています。「九大百

年」書には、横組と縦組があります。いずれも清廉の中にも気力がみなぎる書となっています。

8. 九州大学百周年関連の新聞記事

（平成 19 年）

12/25　日刊工業

百周年記念事業シンボルロゴ決定「知」の象徴デザイン

（平成 20 年）

1/8、9、11　日経、朝日、毎日、西日本

九大ビジネススクール新博多駅ビルに移転調整

4/1　沖縄タイムス

九大に研究施設　稲盛財団が寄贈

5/23　日経

九州大学 2011 年に百周年を迎え「知の新世紀を拓く」オープンキャンパス情報

11/20　朝日

知の世界的拠点　人類の未来を切り拓くリーダーを育成　九州大学

（平成 21 年）

2/25、26　西日本

九大百年思い出描く　東区の吉川幸作さんが作品集

5/16、17、22　毎日、朝日、読売、西日本、産経、佐賀

九大サテライトキャンパス開設　JR 新博多駅ビル

6/27　西日本

九大フィル百周年記念演奏会

9/13　日経

放生会　雨にも盛況　九州大学初出店

10/2、3、7　日刊工業、西日本、朝日

九大、アジアの知の拠点へ　伊都に稲盛財団記念館

11/5　西日本

九大開学 100 周年記念　20 キロウォーク　250 人が参加

11/12　読売

九州の飛躍へ新たな息吹　世界最先端の福岡水素戦略

九州大学百周年

11/17　宇部日報

母校 100 周年に協力　宇部・山陽小野田地域の九州大の同窓会「九友会」

11/22、24　読売、西日本

九大フィル 100 周年定期演奏会

発足当時楽譜は手書　日本人楽団初の「第九」

(平成 22 年)

6/5　朝日

創立 100 周年に向けて、アジアを代表する大学へと飛躍する九州大学　法学部・経済学部

6/10、11　朝日、日刊工業、西日本

九経連と九大が協定

9/25　西日本

創立 100 周年を前に来月から公開講座　九大土木系卒業生ら

11/18、25　西日本、読売、福島民友、河北新報、福島民報

会津藩出身の物理学者山川健次郎の銅像を九州大へ寄贈　伊都キャンパスに設置へ

12/1　西日本

初代総長の胸像　九大へお目見え

(平成 23 年)

1/1、3　日経、西日本

九州大学が創立 100 周年　5 月には記念式典

1/1　西日本

「九大百年」記念ロゴ制作　書家の柿沼さん揮毫

1/18　日経

新幹線、大学の目を博多に　九州大学サテライトキャンパス

1/21　読売

九大創立 100 周年記念ポスター作製

2/16　朝日

九大百年　時代の証人　文書館大学史資料室長　折田悦郎

2/18　産経、西日本

九大ビジネススクール移転、博多駅から 0 分

3/14　西日本

変化を生きる「知の拠点」めざせ九州大学

3/19、31　西日本、読売、朝日、産経

創立 100 周年事業　九大が延期発表

4/26　読売

「九州大学 100 年の宝物」刊行

5/7　西日本

九州大学の 100 年史　編集本格化へ　アジア交流　足跡と未来

5/13、14　西日本、朝日、日経、読売、毎日、熊本日日、大分合同、産経、佐賀

九州大創立 100 年　伊都で記念式典

Ⅱ　記念事業募金の概要

九州大学は 1911 年（明治 44 年）に 4 番目の帝国大学として設立されて以来、2011 年（平成 23 年）で創立百周年を迎え、日本で有数の総合大学に発展してまいりました。この百年の間、九州大学は、戦後の新制大学としての再出発、さらに国立大学法人化（2004 年〈平成 16〉）と大きな制度上の変革を経ながら、幾多の優れた人材を社会に送り出してきました。創立百周年を迎えて九州大学は、「知の新世紀を拓く」というスローガンのもと、グローバル化するアジアの学術リーダーとして「知の新世紀を拓く」拠点の構築をめざし、百周年記念事業を企画しました。この記念事業を実施するための財源として学内・学外から広く寄附を募る「記念事業募金」を開始することとしました。以下、募金事業の概要をご説明いたします。

1. 募金事業を開始するまでの経緯

(1)九州大学百周年記念事業委員会の設置

九州大学は 2011 年（平成 23 年）の創立百周年にあたり、記念事業を企画、推進するために 2005 年（平成 17 年）に九州大学百周年記念事業委員会を設置し、総長を委員長に、理事、副学長、各研究院長など全学各組織のトップで構成し、全学を挙げて百周年記念事業に取り組む体制を整えました。また、記念事業委員会には、小委員会、専門委員会、ワーキンググループ等を設け、記念事業の円滑な実施に向けた対応ができるようにいたしました。百周年記念事業の内容については、記念事業委員会で検討を重ね、2006 年（平成 18 年）10 月 20 日の百周年記念事業委員会で、現在の事業計画が承認されました。次に、記念事業を支える「募金事業」を開始するまでの経緯について、学内の委員会等における審議経過に基づき説明いたします。

《平成 18 年 11 月 17 日》

○　平成 18 年 12 月 1 日から学内教職員を対象とする「学内募金」を開始することが承認された。（百周年記念事業委員会）

《平成 19 年 1 月 19 日》

○　退職者（名誉教授、元部課長等）への募金依頼を開始することとした。（百周年記念事業専門委員会）

《平成 19 年 9 月 21 日》

○　企業への募金活動、当面地元九州地区の企業（約 870 社）への募金活動を開始することが承認された。（百周年記念事業委員会）

《平成 20 年 6 月 17 日》

○　在学生の保護者へ募金案内を行う旨の報告があった。（百周年記念事業委員会）

(2)　九州大学百周年記念事業推進会の設立

九州大学は、2011 年（平成 23 年）に創立百周年を迎えるにあたり、「知の新世紀を拓く」とのスローガンのもと百周年記念事業を企画しましたが、教育研究環境の整備充実という大学にとって極めて重要な事業とともに、大学の社会貢献、とりわけ産学連携・地域連携等の推進という事業を記念事業の大きな柱の一つといたしました。このような大学の記念事業計画に対しては、地元経済界や地域の皆様からも趣旨をご理解いただくとともに、大学内からも学外の方々と連携して百周年記念事業の推進を図りたいとの気運が高まるなかで、このような九州大学の構想は、大学だけではなく、産業界・地域社会にとっても意義深いものであるとの認識から、地元経済界の有志を中心にした発起人の方々の呼びかけにより、「九州大学百周年記念事業推進会」が 2007 年（平成 19 年）2 月に設立されました。本会は、百周年記念事業活動の支援を図ることを目的とする学外組織ですが、会長代行をはじめ役員にも本学教職員が多数参加し、大学と密接な連携のもとに支援事業を行っています。本会の支援事業の中でも中心と

なるものは、「募金事業」に対する支援ですが、これを会として推進するために、「東京部会」、「関西部会」を設置しました。以下、本会の設立の構想から設立総会の開催、部会の設置等に至る流れを説明いたします。

《平成 17 年 7 月 15 日》

○　百周年記念事業のための募金事業を支援する学外組織構想の提示。

（九大・新世紀 2011 プロジェクト委員会）

《平成 18 年 7 月 18 日》

○　学外支援組織「九州大学百周年記念事業を支える会」（仮称）の会則（案）を参考資料として提示。　（百周年記念事業専門委員会）

《平成 18 年 8 月～12 月》

○　九州大学の百周年記念事業のための募金事業を支援する学外組織構想に対し、地元主要企業の九州電力株式会社及び九州経済連合会と九州大学との間で担当者レベルでの検討・打合わせを実施。

《平成 18 年 11 月 7 日》

○　「九州大学百周年記念事業推進会」（仮称）の構想を、役員構成案も含めて提示。　（百周年記念事業専門委員会）

《平成 19 年 1 月 19 日》

○　「九州大学百周年記念事業推進会」（仮称）の会則（案）、発起人会、総会等の開催についての案を提示。　（百周年記念事業専門委員会）

さらに、設立総会までの間、大学と九州電力株式会社、社団法人九州経済連合会との間で幹事会準備会の開催など詳細な準備作業が行われました。

《平成 19 年 2 月 28 日》

○　「九州大学百周年記念事業推進会」設立総会。

○　会長に鎌田迪貞九州経済連合会会長・九州電力株式会社会長を選出。

《平成 19 年 5 月 9 日》

○　企業への募金目標額の決定、東京部会、関西部会設置の検討。

（「推進会」幹事会）

《平成 19 年 7 月 27 日》

○　九州大学百周年記念事業推進会・東京部会の設立総会。

○　部会長に前田勝之助東レ株式会社名誉会長を選出。

《平成 19 年 8 月 1 日》

○　九州地区の企業等への募金活動の実施について審議、了承。

（「推進会」幹事会）

《平成 19 年 11 月 6 日》

○　九州大学百周年記念事業推進会・関西部会の設立総会。

○　部会長に稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長を選出

《平成 21 年 5 月 26 日》

○　辞任の申し出があった鎌田迪貞前推進会会長の後任の選任について書面により第 2 回推進会総会を開催

○　審議の結果、会長に松尾新吾九州経済連合会会長・九州電力株式会社代表取締役会長を選出

(3)募金に関する諸事項

1）募金目標額の決定

百周年記念事業の募金を始めるにあたって、記念事業の内容、募金対象者、経済状況等諸々の要素を検討した結果、目標総額を 100 億円とすることに平成 18 年 7 月 21 日の百周年記念事業委員会で決定しました。

これに基づき、「九州大学百周年記念事業推進会」においても企業・団体への募金活動の支援策を大学と連携しながら検討、協議してきました。

2）募金の対象

募金目標額を達成するために、記念事業委員会等で検討の結果、募金を依頼する対象の範囲を概ね次のようにしました。

①　個人

・九州大学現職教職員　　・九州大学退職教職員

・九州大学卒業生　　・九州大学在学生の保護者

・有志　　・篤志家

②　法人・団体

・上場企業　　・非上場企業

3）寄附者への顕彰

寄附者への感謝の意を表すため、個人情報保護に配慮しつつ、ホームページや、広報誌に氏名を掲載、また金額に応じて銘板に寄附者の氏名等を刻印するなどの方法により九州大学百周年記念事業に多大な貢献をいただいたことを永く記録に留めることとしています。（詳細については、Ⅳ. 資料 47 ページをご覧下さい。）

(4)募金のための諸手続き

九州大学百周年記念事業を行うための資金として、「九州大学百周年記念事業基金」が平成 18 年 11 月に設置され、基金の原資は百周年記念事業に賛同する個人、企業等からの寄附金によるものとされました。また、基金による事業計画の策定、基金の運用方法については、「九州大学百周年記念事業推進会」と事前に協議し、その意見を尊重することとされ、学内外が連携して募金の受け皿の整備を行いました。

寄附金の取扱いについての事務的ルールについても、必要な規定を整備しました。寄附者からの寄附金を取り扱うための金融機関口座の設定にあたっては、寄附者の便宜等も考慮し、福岡市に本店を置く地方銀行 3 行、九州各県の地方銀行各 1 行、福岡市内に支店を置く都市銀行（信託銀行を含む）5 行及びゆうちょ銀行の合計 15 の金融機関とし、その内の複数の銀行からは払込（振込）手数料を銀行負担としていただくなどの協力が得られました。

2. 募金活動

平成 18 年 12 月から開始された学内教職員への募金活動から平成 23 年 3 月までの学内外の募金活動（概要）は次のとおりです。

(1)教職員への協力要請

平成 18 年 12 月 1 日	学内教職員募金開始（教職員へ募金案内配布）
平成 19 年 4 月 5 日	名誉教授等退職者へ募金案内送付
平成 19 年 12 月 17 日	教職員へ募金再案内配布
平成 20 年 3 月 21 日	定年退職者へ募金案内配布
平成 20 年 5 月～6 月	百周年事業担当理事が各部局を訪問し募金協力要請
平成 20 年 6 月 25 日	新規採用者、転入者へ募金案内配布
平成 20 年 10 月 8 日	教職員へ募金再案内配布
平成 21 年 1 月 15 日	新規採用者、転入者へ募金案内配布
平成 21 年 5 月～7 月	百周年記念事業推進課が各部局事務部を訪問し募金協力要請
平成 21 年 6 月 22 日	新規採用者、転入者へ募金案内配布
平成 21 年 8 月 24 日	新規採用事務系職員へ募金案内配布
平成 21 年 11 月	副学長、部局長、部長、課長等へ順次募金再案内配布
平成 22 年 3 月 24 日	定年退職者へ募金案内配布
平成 22 年 4 月 7 日	新規採用事務系職員へ募金案内配布
平成 22 年 5 月	新部局長、部長、課長、課長補佐等へ順次募金案内配布
平成 22 年 6 月～11 月	百周年事業担当理事が各部局を訪問し募金協力要請
平成 22 年 7 月 21 日	教職員へ募金再案内配布
平成 22 年 11 月 16 日	百周年記念事業委員会にて各部局に募金案内配布
平成 22 年 12 月 2 日	事務局、各部局教職員に寄附協力依頼のポスター配布
平成 22 年 12 月 9 日	名誉教授へ募金の再案内送付
平成 22 年 12 月 27 日	病院教職員へ募金再案内配布

平成 23 年 2 月 28 日	病院教職員へ募金再案内配布

(2)卒業生への協力要請

平成 19 年 12 月 1 日	「卒業生」募金開始
平成 20 年 3 月 25 日	卒業式にて募金案内を配布（卒業生・保護者）
平成 20 年 4 月 8 日	入学式にて募金案内を配布(保護者)
平成 20 年 5 月 27 日	卒業生約 31,700 名へ募金案内送付
平成 20 年 9 月	在学生の保護者約 3,500 名へ募金案内送付
平成 20 年 9 月 22 日	卒業生約 27,300 名へ募金案内送付
平成 21 年 1 月 20 日	卒業生約 1,800 名へ募金案内送付
平成 21 年 3 月 24 日	卒業式にて募金案内を配布（卒業生・保護者）
平成 21 年 4 月 7 日	入学式にて募金案内を配布（保護者）
平成 21 年 4 月	卒業生約 20,300 名へ募金案内送付
平成 21 年 7 月 15 日	卒業生約 1,500 名へ募金案内送付
平成 21 年 7 月 28 日	関西同窓会にて募金案内
平成 21 年 8 月 21 日	東京同窓会にて募金案内
平成 21 年 8 月 26 日	医学部同窓会へ募金再案内送付（約 4,800 名）
平成 21 年 10 月 23 日	経済学部同窓会へ募金再案内送付（約 4,000 名）
平成 22 年 3 月～4 月	各部局同窓会支部等へ同窓会報等の発送時に募金案内を同封させていただくなど協力依頼
平成 22 年 3 月 25 日	卒業式にて募金案内を配布（卒業生・保護者）
平成 22 年 4 月 7 日	入学式にて募金案内を配布（保護者）
平成 22 年 6 月 11 日	文学部同窓会へ募金再案内送付（約 4,400 名）
平成 22 年 6 月 16 日～12 月 15 日	卒業生約 57,700 名へ募金再案内を送付
平成 23 年 1 月 19 日	東京同窓会にて募金案内
平成 23 年 1 月 25 日	関西同窓会にて募金案内
平成 23 年 2 月 15 日	医学部卒業生約 2,900 名へ募金再案内を送付
平成 23 年 3 月 24 日	卒業式にて募金案内を配布（卒業生・保護者）
平成 23 年 4 月 7 日	入学式にて募金案内を配布（保護者）

(3)法人への支援要請

法人への寄附要請の対象は、平成 23 年 3 月末現在で、2,076 社です。「百周年記念事業推進会」の協力・支援のもと、平成 20 年 9 月のリーマンショックによる企業業績の悪化という厳しい経済状況の中で、各企業等へ募金要請を行ってきました。募金

活動にあたっては、各企業の九州大学卒業生の方々からも多大なご支援、ご協力をいただきました。このような経済環境にもかかわらず、地元企業を始め多数の企業からご理解ご支援をいただき、平成 23 年 3 月末現在で約 570 社からのご寄附をいただいています。

平成 19 年 9 月 1 日	「九州地区」の法人募金開始
平成 19 年 10 月 1 日	「関東地区」、「関西地区」の法人募金の開始
平成 19 年 12 月 14 日	福岡、北九州地区の商工会議所役員法人へ企業募金案内を送付
平成 19 年 12 月 14 日	九州地区の本学卒業生の代表・役員法人へ企業募金案内を送付
平成 20 年 2 月 20 日	同上
平成 20 年 8 月 29 日	同上
平成 22 年 4 月 8 日	本学関係地元企業訪問開始
平成 22 年 8 月 30 日	九州地区の本学卒業生の代表・役員法人へ企業募金再案内を送付
平成 22 年 10 月 20 日	九州地区、関東地区、関西地区の本学卒業生の代表・役員法人へ企業募金案内を送付

3. 百周年記念事業募金活動の終了と推進会の解散

(1)百周年記念事業募金活動の終了と九州大学基金事業への継続

平成 18 年 12 月から本格的に募金活動を開始して以来、4 年数ヶ月の間に、多くの皆様より、多大なご支援をいただきました。当初の予定通り、平成 23 年 3 月をもって百周年記念事業としての募金活動は終了し、今回、創立百周年で新たに創設された九州大学基金事業として引継ぎます。

なお、分割等の寄附の受入については、引き続き百周年記念事業として受入させていただきます。

(2)推進会の解散

新時代のフロンティアを切り拓く人材の育成を目的とした百周年記念事業の九州大学基金の創設等、記念事業を行うための資金の募集という記念事業の目的を達成することができたことから、（推進会会則第二条）平成 23 年 9 月末をもって、推進会を解散することといたします。

(3)今後の募金事業について

百周年記念事業で創設した九州大学基金を記念事業のコンセプト・スローガンの趣旨に沿って基金を活用し、事業を展開するとともに、今回の百周年記念事業の募金活動で得た寄附事業に関するノウハウ、データ等を「九州大学基金」の募金活動に活かし、基金の拡充に取り組みます。
〔後略〕

第 2 節　九州大学基金の創設

951　九州大学基金（仮称）の設立について

（「部局長会議議事録」　2010（平成 22）年 4 月 20 日）

九州大学基金（仮称）の設立について

平成 22 年 4 月 20 日

1. 設立の目的

九州大学が、世界、そして人類が希求する知を先導すべく、グローバル化する世界の学術リーダーとして、「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、また、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、教育研究診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的とした、「九州大学基金（仮称）」を設立します。

2. 基金の構成及び事業

より円滑かつ機動的な管理・運用を図るため、基金を次の 2 つに区分し、それぞれの寄附目的、事業形態に対応した事業を推進することとします。

1）一般資金

学友会からの承継財産や、寄附者が使途を特定しない全学（部局、講座等を指定しないもの）への寄附金（現物による寄附を受けた不動産等を含む。）を原資として次の事業を推進します。

【主な事業（検討中）】

① 教育研究診療の充実及びそのための環境整備に対する支援
② 産学連携、社会連携活動に対する支援
③ 学生に対する奨学金等の支給
④ 職員、学生等の国際、文化、体育活動等に対する支援　　等

2）特定資金

寄附者が使途を特定した寄附金を原資として、次の事業を推進します。

【主な事業として考えられるもの】

① 特定の研究センター等の維持運営に対する支援

② 特定のプロジェクトの活動に対する支援

③ 若手研究者の受入に対する支援　　等

なお、「創立 80 周年国際学術交流基金」、「創立 80 周年学術研究協力基金」及び「教育研究環境整備基金」については、平成 22 年度までは、事業の実施主体は従来どおりとし、関係する委員会による議決等を経て事業を推進するものとします。

3. 今後の展開、手続き等

平成 22 年 5 月 1 日を目途に、関係学内規定を整備の上、基金を設立し、その運営について審議する委員会を設置します。

平成 22 年度開学記念行事等において、本基金設立の趣旨等、広く情報を発信し、寄附を募ります。

952　九州大学基金規程

（2010（平成 22）年 6 月 10 日施行）

九州大学基金規程

平成 22 年度九大規程第 8 号

施 行：平成 22 年 6 月 10 日

（設置）

第 1 条　九州大学（以下「本学」という。）に、九州大学基金（以下「九大基金」という。）を置く。

（目的）

第 2 条　九大基金は、本学が、世界そして人類が希求する知を先導すべく、グローバル化する世界の学術リーダーとして、「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、また、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、本学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的とする。

（定義）

第 3 条　この規程において「寄附金等」とは、国立大学法人九州大学寄附金取扱規程（平成 16 年度九大会規第 6 号。以下「寄附金取扱規程」という。）第 2 条第 1 号の寄附金、国立大学法人九州大学不動産等管理規程（平成 16 年度九大会規第 7 号。以下「不動産等管理規程」という。）第 2 条第 2 項の不動産等及び国立大学法人九州大学物品管理規程（平成 16 年度九大会規第 8 号。以下「物品管理規程」という。）第 2 条第 2 項の物品のうち、次条に掲げる事業に供することを目的として寄附されるもの（特定の部局等へ寄附されるものを除く。）をいう。

（事業）

第 4 条　九大基金は、第 2 条の目的を達成するため、次に掲げる事業の用に供するものとする。

(1)　本学の教育研究の充実及びそのための環境整備に対する支援

(2)　産学連携その他社会連携活動等に対する支援

(3)　本学の学生に対する奨学金等の支給

(4)　本学の教職員、学生等の国際、文化及び体育活動並びに能力開発等に対する支援

(5)　本学の卒業生等との連携活動等に対する支援

(6)　国際交流及び留学生に対する支援

(7)　キャンパス内の環境整備及び美化に対する支援

(8)　その他九大基金の目的達成に必要な事業

（九大基金の構成）

第 5 条　九大基金は、寄附金等及びその運用による果実をもって構成する。

2　九大基金を一般資金と特定資金に区分する。

（一般資金）

第 6 条　寄附者から使途を特定されていない寄附金等及び次条の特定資金に該当しない寄附金等については、一般資金とする。

（特定資金）

第 7 条　寄附者から使途を特定された寄附金等で、他の寄附金等と区分して管理運営すべきものについては、特定資金とする。

2　特定資金の種類その他必要な事項は、第 9 条の基金委員会において定める。

（謝意表明）

第 8 条　寄附金等の寄附者に対する謝意の表明に関し必要な事項は、別に定める。

（基金委員会）

第 9 条　九大基金に関する重要事項を審議するため、九州大学基金委員会（以下「基金委員会」という。）を置く。

2　基金委員会の組織、議事の手続その他必要な事項は、別に定める。

（事業年度）

第 10 条　九大基金の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わるものとする。

（運営費）

第 11 条　九大基金の運営に必要な経費については、九大基金をもって充てる。

2　前項の経費については、毎年度、その予算及び決算について基金委員会の審議を経るものとする。

（寄附金等の受入れ及び管理）

第 12 条　寄附金等の受入れ及び管理については、本規程及び本規程に基づく細則等で定める場合を除いては、寄附金取扱規程、不動産等管理規程第 15 条及び物品管理規程第 8 条の定めるところによる。

（事務）

第 13 条　九大基金に関する事務は、事務局関係各課等の協力を得て、財務部財務企画課において処理する。

2　九大基金の財務及び会計に関する事務の取扱いは、この規程に定めるもののほか、国立大学法人九州大学会計規則（平成 16 年度九大会規第 1 号）その他の規則の定めるところによる。

（雑則）

第 14 条　この規程に定めるもののほか、九大基金に関し必要な事項は、基金委員会が別に定める。

附　則

1　この規程は、平成 22 年 6 月 10 日から施行する。

2　この規程施行の際現に存する次に掲げる基金については、九大基金として、平成 22 年 6 月 10 日に承継する。

(1)　九州大学創立 80 周年記念事業国際学術交流基金

(2)　九州大学創立 80 周年記念事業学術研究協力基金

(3)　九州大学教育研究環境整備基金

953　九州大学基金本部規則

（2001（平成 23）年 10 月 1 日施行）

九州大学基金本部規則

平成 23 年度九大規則第 40 号

施　　行:平成 23 年 10 月 1 日

（趣旨）

第 1 条　この規則は、九州大学学則（平成 16 年度九大規則第 1 号。以下「学則」という。）第 15 条の 4 第 2 項の規定に基づき、基金本部の構成その他必要な事項を定めるものとする。

（基金本部）

第 2 条　基金本部は、次に掲げる部局等をもって構成する。

(1)　基金事業推進室

(2)　総務部百周年記念事業推進課基金事務室

2　基金本部に本部長を置き、総長をもって充てる。

3　本部長は、九州大学基金事業の推進に関する事項を総括する。

4　基金本部に副本部長を置き、総長が指名する理事をもって充てる。

5　副本部長は、本部長を補佐する。

（顧問）

第 3 条　学則第 15 条の 4 第 1 項に規定する基金本部の目的を達成するため、基金本部に、顧問を置くことができる。

2　顧問は、学内外の学識経験者のうちから、本部長が指名又は委嘱する者をもって充てる。

（運営会議等）

第 4 条　基金本部に、基金本部会議を置く。

2　基金本部会議の組織及び運営等に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第 5 条　基金本部の運営に関する事務は、総務部百周年記念事業推進課基金事務室において処理する。

（補則）

第 6 条　この規則に定めるもののほか、基金本部の運営等に関し必要な事項は、本部長が定める。

附　則

この規則は、平成 23 年 10 月 1 日から施行する。

954　九州大学基金事業推進室規程

（2011（平成 23）年 10 月 1 日施行）

九州大学基金事業推進室規程

平成 23 年度九大規程第 48 号

施　　行:平成 23 年 10 月 1 日

（趣旨）

第 1 条　この規程は、九州大学学則（平成 16 年度九大規則第 1 号）第 16 条第 3 項の規定に基づき、基金事業推進室（以下「推進室」という。）の内部組織その他必要な事項を定めるものとする。

（業務）

第 2 条　推進室は、九州大学基金事業の実施に係る企画・立案を行う。

（組織）

第 3 条　推進室は、室長及び室員をもって構成する。

（室長）

第 4 条　室長は、総長が指名する理事をもって充てる。

2　室長は、推進室の業務を掌理する。

（室員）

第 5 条　室員は、職員のうちから総長が指名する。

2　室員は、室長の命を受け、推進室の業務を処理する。

（事務）

第 6 条　推進室に関する事務は、事務局各課等の協力を得て、総務部百周年記念事業推進課基金事務室において処理する。

（補則）

第 7 条　この規程に定めるもののほか、推進室の運営等に関し必要な事項は、室長が別に定める。

附　則

この規定は、平成 23 年 10 月 1 日から施行する。

第 3 節　創立百周年記念式典

955　創立百周年記念行事式典式次第

（表紙）

「

九大百年

」

ごあいさつ

新たな百年に向けて

九州大学は、明治 44 年、我が国四番目の帝国大学となる九州帝国大学として創設され、昨年、創立百周年を迎えました。

これまでの百年は、歴代の総長をはじめとする諸先輩方の努力と、卓越した見識、成果の蓄積が力となり、伝統と実績に基づく我が国を代表する基幹的総合大学として最高水準の教育・研究・診療活動を展開し、数多くの優れた人材を輩出するとともに、優れた研究業績を残してまいりました。

百周年を迎えるにあたり、推進してまいりました記念事業に、卒業生をはじめ、経済界、地元自治体、関係団体の皆様、保護者、名誉教授、退職者及び教職員、学生の皆様から賜りました多大なご協力、ご支援に心より厚く御礼申し上げます。

九州大学は、新たな百年に向けて、すべての分野において世界的に高く評価され、更に存在感のある大学として躍進すべく、本学の基本理念と目指す姿を掲げ、その実

現に向けて一層の努力と挑戦を続けてまいります。

九州大学　総長　有川　節夫

九州大学創立百周年記念行事
式次第
平成 24 年 5 月 12 日

創立百周年記念式典
時間：13 時～14 時 30 分

祝賀演奏
開　　式
式　　辞
　九州大学　総長　　有　川　節　夫
祝　　辞
　文部科学大臣　　平　野　博　文　様
　東京大学総長　　濱　田　純　一　様
　福岡県知事　　小　川　　洋　様
　九州経済連合会会長　松　尾　新　吾　様
　卒業生代表　　岡　部　正　彦　様
百周年記念事業報告
　百周年事業担当理事　落　合　英　俊
閉　式

司会者（NHK アナウンサー）
内　山　俊　哉

創立百周年記念講演会
時間：15 時～16 時 30 分

特別講演
「偶然（Serendipity）と人物交流が織りなす研究人生」
新　海　征　治　氏
九州大学　高等研究院
特別主幹教授
「夢と宇宙　母校への期待」
若　田　光　一　氏
宇宙航空研究開発機構（JAXA）

宇宙飛行士グループ長

祝賀演奏
『九大百年祝典序曲』
九大フィルハーモニーオーケストラ

写真で見る「九大百年」展
時間：10 時～17 時 30 分
場所：旧工学部本館 1 階

記念品〔中略〕

百周年記念事業担当課　九州大学総務部基金事業課

956　九州大学創立百周年記念式典総長式辞

（『九大広報』百周年特集号　2013（平成 25）年 12 月）

九州大学創立百周年記念式典　有川節夫総長式辞

本日ここに、平野博文文部科学大臣をはじめ多くのご来賓並びに関係の皆様のご臨席を賜り、九州大学創立百周年記念式典を執り行うことができますことは、本学にとりまして誠に光栄なことであり、ご多用のところご臨席賜りました皆様に、九州大学を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

本日は、ご祝辞を賜ります平野文部科学大臣、国立大学協会会長の濱田東京大学総長、小川福岡県知事、百周年記念事業推進会会長を務めていただきました松尾九州経済連合会会長、岡部九州大学東京同窓会会長、本学の創設時に深い関わりのございました京都大学の松本総長、本学と統合した九州芸術工科大学の最後の学長の瀧山様、並びに本学に多大なるご支援を賜りました渡邉様、古河様、麻生様、そして、本学の発展に尽力されました歴代総長の方々にご登壇いただいております。

また、会場には、福岡県ゆかりの多くの国会議員の方々や官公庁関係の方々、多くの大学の学長先生方、各国領事館等の方々、常日頃から多大なご支援・ご協力をいただいております企業や団体の方々、及び本学の関係者等、実に多数の皆様にご出席いただいております。あらためまして厚く御礼申し上げます。

九州大学は、昨年 2011 年に創立百周年を迎えましたが、百周年記念式典等の諸行事は、3 月 11 日に発生した東日本大震災による甚大な被害に鑑み、1 年間延期させていただき、本日、記念式典を挙行する運びとなった次第であります。九州大学は、震災発生直後から震災支援対策室を設置し、可能な限りの様々な支援を行ってまいりま

したが、被災地の一刻も早い復旧と日本全体の復興を心から願っております。

九州大学にとって、今年は、これまでの百年を礎に、これからの新たな百年へ向けた大きな第一歩を踏み出した年であります。

九州大学の前身は、1879 年（明治 12 年）の福岡医学校にあります。1900 年に我が国の義務教育就学率は 80%を超え、初等教育の発展は中等・高等教育の必要性を増加させました。やがて九州での帝国大学設置の可能性が浮上し、各県による激しい大学誘致運動が展開されました。

そして、明治 36 年に、本日は松本京都大学総長にご出席いただいておりますが、ここ福岡の地に京都帝国大学福岡医科大学が設置されました。この設置に際し、資金のご支援をいただきましたのが福岡市の呉服商「紙与」のご長男、渡邉與八郎氏でございました。本日は壇上にご子孫の渡邉與三郎様にお越しいただいております。渡邉様にはその後の工科大学の設置の際にも、住吉の保有地を活用し、大学創設を成功に導いていただきました。

工科大学の創立時は財政難でございましたが、現古河電気工業の古河虎之助氏より建物建設のご支援を受け、明治 44 年（1911 年）に工科大学が新設され、これと京都帝国大学福岡医科大学が統合し、我が国第四番目の帝国大学、九州帝国大学が創設されました。この 1911 年から数えまして、昨年が百周年ということでございます。また、大正 12 年には工学部本館が焼失いたしましたが、再度古河様のご寄附により再建いただいています。本日は古河家のご子孫の古河潤之助様にお越しいただいております。

その後、大正 8 年に農学部が、大正 13 年に法文学部が創設されました。昭和 14 年には麻生商店 2 代目社長の麻生太賀吉氏より寄附金のご支援を賜り、理学部が創設されました。本日は麻生家から麻生誠様にご出席いただいています。

渡邉家、古河家、麻生家などからの多大な資金のご支援や、福岡日日新聞（現西日本新聞）のご協力、また地元の福岡県、福岡市、糟屋郡、箱崎町などからの土地のご寄附などが九州大学の創設、学部創設時に果たしてきた役割は極めて大きなものでございます。創設以来、ご支援いただきました方々にあらためて深く感謝申し上げます。

その後、昭和 22 年に九州帝国大学は九州大学と改称され、次いで 24 年には法文学部が法学部、文学部、経済学部に分立、同年 5 月には新制の九州大学が誕生し、教育学部と三つの分校ができました。六本松の分校は昭和 38 年に正式に教養部となります。昭和 39 年には薬学部、42 年には歯学部が創設され、昭和 57 年には、4 番目のキャンパスとして筑紫地区が開設されました。

平成に入ると九州大学は大きな改革の時期を迎え、平成 6 年には教養部が廃止、大学院重点化が進められ、12 年には学府・研究院制度が始まります。15 年には九州芸術工科大学と統合しました。そして、平成 16 年に国立大学法人九州大学となり、17

年には、さらなる改革の理念を実現し、新たな教育・研究の中核的拠点を実現するために、伊都キャンパスへの移転を開始しました。この広大な伊都キャンパスは、遺跡を大切にし、生物多様性の保全等に配慮した歴史と自然環境と共生したキャンパスであるとともに、様々な最先端科学技術の実証実験を行うキャンパスとして整備・発展を続けています。

九州大学は、初代総長の山川健次郎先生をはじめとする諸先輩のご努力と卓越した見識、成果の蓄積が、九州大学の力となり、現在では 11 学部・18 学府・17 研究院・5 研究所と病院、附属図書館、数多くの教育・研究施設等を有し、学生・大学院生約 19,000 名、教職員 7,600 名を擁する「我が国を代表する基幹的総合大学」として、最高水準の教育・研究・診療活動を行い、優れた人材を数多く輩出しています。

これまでの長きにわたり、ご指導とご支援をいただいてまいりました平野大臣をはじめとします文部科学省の皆様、多くの関係の皆様に、あらためて深く感謝申し上げます。

この百年の間、大学を取り巻く国内外の環境は大きく変化しましたが、九州大学はその時代時代の地域社会・国際社会・学界の要請に応えながら、自らの理念や方向性を明確にし、様々な改革に取り組んできました。

特に近年は、国立大学の法人化に先立ち、平成 7 年に「九州大学の改革の大綱案」、平成 12 年に「九州大学教育憲章」、平成 14 年に「九州大学学術憲章」を制定し、大学の在り方を示すとともに、教育組織と研究組織を分離させた「学府・研究院制度」を発足させ、柔軟な組織連携と迅速な改革への対応を可能としています。

このような改革の理念や方向性、制度により、平成 16 年の法人化後も「統合新領域学府」や「高等研究院」、「カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所」、「マス・フォア・インダストリ研究所」等の新たな教育組織や研究組織の新設改編を意欲的に継続し、先進的な事業を展開しています。

さらに、百周年を迎えました昨年は、新たな百年のための礎として、新しい視点で全学教育に責任を持って取り組む「基幹教育院」を創設し、また、社会や学界の要請に迅速に応えるべく、自律的に改革を継続するための「永続性のある強靭な改革のスキーム」として「大学改革活性化制度」を導入しました。

また、平成 17 年から「知の新世紀を拓く」をスローガンとして取り組んでまいりました創立百周年記念事業といたしましては、経済界をはじめ地元自治体、関係団体の皆様にご協力いただき、百周年記念事業推進会を組織し、記念事業の推進にご尽力をいただきました。お陰様をもちまして、建物として、公益財団法人稲盛財団様から平成 21 年 8 月竣工の稲盛財団記念館、椎木正和様から 26 年 2 月に完成予定の椎木講堂を寄附いただき、さらに、卒業生をはじめ、企業・団体・保護者・名誉教授・退職者及び教職員・学生の皆様から多くのご寄附をいただき、建物も合わせまして、総勢

1 万名以上、総額 98 億円以上という多額のご支援を賜りました。多大なるご尽力をいただきました百周年記念事業推進会の皆様並びにご支援を賜りました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

九州大学では皆様からいただきましたご寄附を基に「九州大学基金」を創設し、学生、若手教職員への様々な支援を行い、人類の未来を切り拓くリーダーを育成し、社会に輩出し続けます。また、産業界・地域・卒業生・同窓会との連携も視野に入れて、この基金を活用させていただくこととしています。

今般の東日本大震災により、大学人として多くのことを考えさせられました。自然の測り知れない力、科学技術の意外な脆弱さ、危機や大災害に対する社会システムの不完全さなど、多くの課題を突き付けられました。一方で、日本が長年かけて培ってきた文化と倫理のシステムは、大災害にあっても、怯まず、冷静沈着で、忍耐強く、互いに分かち合い、支え合い、そして、整然として、規律正しく、時には多くを失いながら少しだけは残されたことに対する感謝の気持ちさえも表わす国民性として、この壊滅的な極限状況にあっても驚異的な形で十全に機能した、と言えると思います。科学技術のシステムや政治経済等の社会のシステムにおいても、そうした機能と制御が可能であると考えます。九州大学は、今後、あらゆる自然災害や事件・事故に対して、最悪の事態を想定したリスク管理の課題に全学をあげて組織的に取り組んで参ります。

少子高齢化と労働力人口の減少、雇用問題や財政状況の悪化等の国内問題に加え、地球環境問題、資源・エネルギー問題、感染症など地球規模の課題も顕在化し深刻化しています。このような状況において、我が国が自然環境と調和しながら持続的な成長を成し遂げ、また地球規模の課題解決に向けて存在感を発揮し続けるためには、大学がその中核となる人材を育成し、新たな価値や技術を絶えず創造していかなければなりません。特に、グローバルに活動を展開する企業や大学、研究機関等において国籍を問わず優れた人材を獲得する動きが活発化しています。そのため、産学官を問わず、国内外の様々な分野においてリーダーシップを発揮できる高い専門性と広い教養・俯瞰力を身に付けた高度なイノベーション人材を育成していく必要があります。

九州大学には、時代の変化を的確に捉え、機敏に対応でき、柔軟で力強い学問の場として、地球規模での課題を見据え、長期的視座に立って、潜在的需要を開拓し、また、既成の枠組みを超える新たな分野を開拓してきた伝統があります。こうした伝統を生かして人類の課題に誠実かつ大胆に取り組んでいきたいと思います。

近年、大学の教育・研究・診療を支える基盤的経費は減少傾向にありますが、我が国の教育研究水準を維持し、向上させるためには，安定した財政基盤が確保される必要があります。このため、大学は、国の公財政負担について国民から理解・合意が得られるように、展開する研究や診療、育成する人材像や運営方針を明確にするととも

に、社会や学界の要請に対して迅速に応えられるよう常に改革を進め、説明責任を果たしていく必要があります。このためにも、昨年九大百年に際して創設した、「大学改革活性化制度」及び「基幹教育院」の制度、体制が機能すると思います。

以上のようなことを念頭に置き、本日皆様にリーフレットをお配りしていますが、九州大学は、自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となることを基本理念とし、次のような大学を目指すことをここに宣言し、百周年記念式典の式辞とさせていただきます。

1. 社会の課題に応える大学
2. 最高水準の研究を推進する大学
3. アクティブ・ラーナーを育成する大学
4. 骨太のリーダーを養成する大学
5. 先端医療により地域と国際社会に貢献する大学
6. 卓越した研究教育環境を構築・維持する大学
7. グローバル社会と地域社会を牽引する大学
8. 自律的改革により進化し続ける大学
9. 知の蓄積と継承・発信を推進する大学

「九大百年、躍進百大」。九州大学がどの分野においても世界のトップ百大学に躍進すべく、これからの百年の発展を築いて参ります。本日は誠にありがとうございます。

平成 24 年 5 月 12 日

九州大学総長　有川　節夫

〔註〕原本縦書き。